

研究紀要

平成29年度

第41号

静岡県博物館協会 研究紀要 第41号



静岡県博物館協会
研究紀要

第41号／平成29年度

表紙／ワークショップ

「小さな尺八“一節切”を作って演奏しよう!」の様子

目次

2 静岡近代美術年表稿 昭和戦後編 4

立花義彰

26 平成29年度 静岡県博物館協会地域セミナー事例報告
夏休み子どもワークショップ
一休さんも吹いた笛「小さな尺八“一節切”を作って演奏しよう!」

浜松市楽器博物館 嶋 和彦

30 上原美術館のリニューアル

公益財団法人上原美術館 土森智典

36 静岡県博物館協会 研究紀要投稿規程

編集・発行

静岡県博物館協会(事務局)

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

静岡県立美術館

電話・054-263-5857 FAX・054-263-5742

デザイン 有限会社サイズ

発行日 2018年(平成30年)3月31日

印刷 有限会社橋本印刷所

静岡近代美術年表稿 昭和戦後編 4

立花義彰

1960 昭和35年

- 1/ 1 高島達四郎《熱海来宮風景》(朝日静岡版1/1)
- 1/ 4 日写連静岡支部創立展於静岡吉見書店(-10)。
(朝日静岡版1/10)
- 1/ 5 第11回秀作美術展於東京日本橋三越(-17)。
山口源《萌芽季》
- 1/ 6 鈴木三朝展於浜松松菱(-10)。(浜松民報1/9)
- 1/10 伊藤隆史・鈴木慶則展於東京村松画廊(-15)。
- 1/ 河西賢太郎・増井久男展於静岡吉見書店(-17)。
(読売静岡B版1/15)
- 1/13 三沢佐助水彩個展於沼津マルサン書店(-19)。
(沼津朝日1/14)
- 1/ 堤達男《静岡市教委コンクールメダル》制作。
(静岡1/19)
- 1/17 熱海美術協会創立総会。(伊豆毎日1/6,12,13,
22,2/14,4/10)
- 1/24 山口源、静流会会長となる。(沼津朝日1/26)
- 1/28 横山久子個展於静岡谷島屋書店(-2/2)。
(読売静岡B版1/29)
- 1/28 県毎日写真第6回展於静岡田中屋(-2/1)。
(毎日静岡版1/29,遠州版2/1,3)
- 2/ 2 松坂屋創業50年記念現代美術展於東京上野松
坂屋(-7),於静岡松坂屋(3/10-16)。秋野不矩
《岬》近藤浩一路《新春霊峰》中村岳陵《荒磯》
中島多茂都《龍山待春》(静岡3/6,11,毎日静岡
版3/8,14,読売静岡版3/8)
- 2/ 5 白石嘉一《摩周湖》沼津警察署高島派出所に寄
贈される。(沼津朝日2/6,静岡2/6)
- 2/ 5 伊東深水美人画展於静岡安心堂(-12)。
(静岡2/7,読売静岡B版2/10,16,17)
- 2/ 5 曾宮一念淡彩近作展於浜松ナカムラ画廊(-10)。
- 2/ 大村政夫《お吉観音像》下田宝福寺に寄贈され
る。(静岡2/14,朝日駿遠版2/14)
- 2/15 滝沢清素描展於静岡扇子屋(-29)。
(朝日駿遠版2/20)
- 2/16 明治・大正・昭和にわたる名作美術展於静岡松
坂屋(-28)。(中日静岡,遠州版1/12,2/9,10,11,12,
13,14,15,16,17,18,19,20,22,24,25,27,29,3/10,読売
静岡B版1/31,毎日静岡版2/9)
- 2/17 アンデパンダン第6回展於浜松松菱(-21)。
(浜松民報1/19,毎日遠州版2/21)
- 3/ 2 アンデス遺跡展於静岡松坂屋(-8)。(読売静岡B
版2/27,3/1,8,毎日静岡版2/27,朝日駿豆,駿遠版
3/2,静岡3/2)
- 3/ 3 第20回美術文化協会展於東京都美術館(-16)。
猪飼重明《化石の壁》《洪積世人類発掘》《洞窟
の丘》《化石の丘》中村博《大地》《赤い河》《楽
園追放》他。入選者。(浜松民報3/3,静岡3/5,11)
- 3/ 3 和田金剛小品展於沼津田中温古堂(-7)。(沼津
朝日3/1,5,沼津毎日3/3)
- 3/ 扇子屋画廊新装オープン。(静岡3/16,毎日静岡
東,中,西部版S50.10/3)
- 3/ 3 静岡新人11人展第2回展於静岡扇子屋(-31)。
(読売静岡B版3/5,13,16,静岡3/16)
- 3/ 7 和田金剛《希望と自立と躍動》除幕式於沼津第
五中学校。(毎日静岡版2/1,15*,静岡2/14,沼津
朝日3/5)
- 3/ 7 ヒューマン・フォト・グループ展於静岡吉見書店
(-13)。(毎日静岡版3/8,読売静岡B版3/9)
- 3/12 柴田隆二「新しい目 新しい心」(郷土3/12,20,
27,4/2,10,17,24,5/1,8,15)
- 3/15 加賀孝一郎展於静岡江崎書店(-19)。(静岡
3/15,16,毎日静岡版3/15,読売静岡B版3/17)
- 3/16 行動美術会員七人展於浜松ナカムラ画廊(-22)。

- (毎日遠州版3/16)
- 3/17 水野欣三郎《伸びゆく浜松(愛と成長)》設置於浜松市役所前広場。(毎日遠州版2/11,3/18*,静岡2/28,浜松民報3/17,中日遠州版3/18,4/17)
- 3/17 壮炎会展浜松松菱(-20)。(浜松民報3/15)
- 3/19 第19回水彩連盟展於東京都美術館(-31)。準会員推挙者。(静岡3/24)
- 3/19 堤達男《灯を掲げよ》除幕式於土肥中学。(静岡3/7)
- 3/23 形象派展於東京銀座画廊(-28)。(静岡3/30)
- 3/24 沢村美佐子個展於東京村松画廊(-28)。
- 3/25 石井猿公演会於清水市公会堂。(静岡3/5)
- 3/28 青山竜水・桑原実・鷹山宇一三人展於静岡江崎書店(-4/3)。(静岡3/24)
- 3/28 大井秀夫展於静岡吉見書店(-4/3)。(朝日静岡版3/30)
- 3/29 松島達太郎展於浜松松菱(-4/3)。(浜松民報3/30,毎日遠州版3/31,中日遠州版3/30)
- / 堤達男《平岡市三郎胸像》於富士宮北山。(静岡S34.12/1,毎日静岡版3/19)
- 4/ 1 柴田俊油絵個展於静岡扇子屋(-15)。(朝日静岡版4/1,静岡4/2,6)
- 4/ 2 第40回光風会展於東京都美術館(-19)。藤本東一良《ヨット》鳥戸繁《網と舟》
- 4/ 2 第28回日本版画協会展於東京都美術館(-19)。栗山茂《作品-60no.4》《仁王門》中川雄太郎《彼岸頃1》《彼岸頃2》山口源《希望のあかつき》《晩秋の詩》《未来への覚書き》
- 4/ 3 《乃木希典胸像》除幕式於浜名湖公園。紆余曲折の末。(静岡S24.4/13,S25.8/9,S30.6/12,S31.1/5,S34.7/10,8/14,11/8,S35.3/18,28,毎日静岡版S31.3/3,遠州版S32.10/21,S35.3/31,中日遠州版S32.7/3,10/16,S35.3/28,遠州S31.7/8,浜松民報S35.2/16,朝日静岡版S35.4/4*)
- 4/ 4 浜松ナカムラ画廊主催現代洋画大家近作展於静岡吉見書店(-10)。(静岡4/4,6,毎日静岡版4/6,23,朝日駿遠版4/6)
- 4/ 4 太田恭一・太田重子近作小品展於静岡江崎書店(-9)。(静岡3/24,毎日静岡版3/30)
- 4/ 5 第3回国際具象派美術展於東京銀座松坂屋(-13)。北川民次《無題[赤いオイルタンク]》野田好子《地上の十字》
- 4/ 5 笹本克彦・村松秀太郎・山下邦雄芸大日本画三人展於浜松市立図書館(-10)。(浜松民報4/5)
- 4/ 県内在住作家近作展於静岡扇子屋(-)。(静岡4/6)
- 4/12 犬塚友吉展於浜松松菱(-17)。(静岡4/14)
- 4/14 明治・大正・昭和文人遺墨展於浜松商工会館(-16)。(中日遠州版4/15,浜松民報4/15)
- 4/ 下田舜堂《孝行犬》(三島円明寺)原型制作。(静岡4/17)
- 4/17 第8回日彫展於東京都美術館(-5/7)。浅井行雄《裸婦》澤田政廣《天部頭部試作》重岡建治《Tさんの首》堤達男《薫風》《粧》飛岡文一《ますらお》《安木輝雄像》平野敬吉《女首》和田金剛《横臥する人》(出品目録)
- 4/17 前田守一展於静岡江崎書店(-22)。(朝日静岡版4/16)
- 4/19 朴土会日本画第1回展於浜松松菱(-21)。(浜松民報4/21)
- 4/21 横井義章・河瀬道雄二人展於富士宮吉沢文具店(-24)。(静岡4/21)
- 4/21 SAN元会第7回展於県民会館(-24)。(浜松民報4/15,静岡4/27)
- 4/22 第34回国画会展於東京都美術館(-5/8)。青木達弥《城跡(A)》《城跡(B)》柏木俊一《福神祝寿》渋川栄志《娘》曾宮一念《黒ぶどう》野田好子《天と地》栗山茂《鳥対話I》《鳥対話II》中川雄太郎《伝説(花の精)》山口源《素因》《踏査》《婦結》芹沢銈介《壺屋風物文部屋着》《鳥々文着尺》出品。新入選者。(朝日静岡版4/20)
- 4/24 現代写真展於県民会館(-30)。
- 5/ 1 杉の子同人写真展於掛川平喜(-5)。(朝日静岡版4/30,郷土5/8,15,毎日遠州版5/8)
- 5/ 清恒好個展於静岡扇子屋(-15)。(静岡5/4,朝日駿遠版5/8)
- 5/ 3 彫塑展於県民会館(-7)。(毎日静岡版5/1)
- 5/ 6 清川泰次個展於東京国際画廊(-14)。(浜松民報5/11)

- 5/8 「杉の子同人」(毎日遠州版5/8)
- 5/ 東西日本画展於静岡安心堂(-15),県民会館(-12)。(朝日駿遠版5/10)
- 5/10 第4回現代日本美術展於東京都美術館(-21)。
北川民次《客人》曾宮一念《富士裾野とアシタカ山》
《裾野と雲》秋野不矩《暮れる海》近藤浩一路《滝》
山口源《妾》《孤》澤田政廣《傷つける武人》出品。
- 5/10 滝沢清個展於静岡吉見書店(-15)。(静岡5/10,朝日駿遠版5/10)
- 5/ 福沢一郎小品展於浜松松菱(-15)。(浜松民報5/11)
- 5/13 虹人会日本画展於静岡谷島屋書店(-19)。(朝日駿遠版5/8,静岡5/14)
- 5/15 芹沢銈介染絵展於東京中央画廊(-21)。
- 5/16 第20回美術文化協会静岡展於県民会館(-22)。(浜松民報2/1,5/10,毎日静岡版5/14,静岡5/18)
- 5/16 形象派三人展於静岡扇子屋(-31)。(静岡5/18,朝日駿遠版5/18,毎日静岡版5/18)
- 5/17 遠州美術第4回展於浜松松菱(-22)。(毎日遠州版5/19,浜松民報5/7,17,20,24)
- 5/ 平松氏個展於静岡吉見書店(-22)。(静岡5/18)
- 5/18 龍駿介富士油絵展於静岡市産業会館(-22)。(静岡5/17,18)
- 5/19 日本画十人展於静岡松坂屋(-22)。(朝日駿豆版5/11)
- 5/21 増田大罌展於静岡安心堂(-27)。(静岡5/21,毎日静岡版5/24)
- 5/ らばん会第9回展於静岡吉見書店(-29,31-6/5)。
丹羽勝次《作品》他。(静岡5/25,6/1)
- 5/24 水野欣三郎《長谷川鉄雄胸像》除幕式於浜松誠心高校。(浜松民報5/18,中日駿遠版5/20*,遠州版5/24)
- 5/24 川島彦市展於浜松松菱(-29)。(浜松民報5/24,27)
- 5/ 東西日本画大家近作展於沼津イナノ文具店(-29)。(沼津朝日5/26)
- 5/26 斎藤真一個展於伊東丸共ホール(-31)。(毎日静岡版5/24)
- 5/28 杉山有「静岡百景」展於静岡谷島屋書店(-30)。(静岡5/25,毎日静岡版5/26,朝日静岡版5/27)
- 5/28 山村誠逝去。53歳。(浜松民報5/28,朝日静岡版5/29)
- 5/28 浜田庄司新作陶器展於浜松内田宅(-29)。(浜松民報5/30)
- 5/29 県文化協会発足。(静岡S27.2/5,毎日静岡版5/24,30,遠州版5/22,30,中日静岡,遠州版5/28)
- 5/30 児島善三郎展於東京日本橋画廊(-6/4)。(《熱海》他)。(伊豆毎日6/9)
- 5/31 「前田千寸先生のこと」(沼津朝日5/31,6/1,2,3,4,5,7)
- 5/31 行動美術協会在京会員油絵色紙展於浜松松菱(-6/5)。(浜松民報5/31,6/3,静岡6/1)
- 6/ 山口益彫塑楽焼展於沼津山口益アトリエ(-8)。(静岡6/1,黎明6/4)
- 6/2 水島裕個展於静岡松坂屋(-5)。(静岡6/3)
- 6/6 高木俱個展於東京養清堂(-11)。(沼津朝日6/7)
- 6/8 「世界をめぐるカメラマン杉山吉良」(静岡6/8)
- 6/9 現代名家新作日本画展於静岡安心堂(-19),於沼津イナノ文房具店(21-27)。(静岡6/9,朝日静岡版6/9,毎日静岡版6/10,沼津朝日6/21)
- 6/11 肉筆似顔絵漫画展於静岡松坂屋(-11)。(毎日静岡版6/3,静岡6/10,12)
- 6/11 松岡圭三郎近作展於県民会館(-15)。(静岡6/11,毎日静岡版6/16)
- 6/12 前田千寸『日本色彩文化史』出版記念祝賀会於沼津香陵会館。(毎日静岡版S28.5/26,S34.2/14 読売静岡版8/12,沼津朝日S34.2/12,6/2,9/4,S35.2/14,5/3,18,29,6/7,11,14,沼津毎日4/18,6/9,静岡6/1,黎明6/12)
- 6/14 井上恒也日本画展於東京日本橋三越(-19)。
- 6/16 県写真サロン展於静岡田中屋(-20)。(朝日静岡版4/6,6/1,7,8,9,10,11,12,14,15,16,18,毎日静岡版6/1)
- 6/21 加賀孝一郎展於清水市青少年会館(-26)。(毎日静岡6/20)
- 6/21 島田四郎個展於静岡安心堂(-29)。(毎日静岡版6/21,静岡6/29)
- 6/21 佐々木松次郎・相生垣瓜人展於浜松松菱(-26)。(静岡6/13,浜松民報6/25)
- 6/22 藤野嘉市個展於静岡谷島屋書店(-26)。(毎日静岡版6/21,静岡6/29)
- 6/28 阿部六陽日本画展於浜松松菱(-30)。

- (静岡6/13,浜松民報6/22,毎日遠州版6/24)
- 6/ 五社神社より公会堂前公園へ大正期の忠霊塔移転。(中日遠州版6/30)
- 6/30 中島扶久子逝去。(毎日遠州版8/6,中日遠州版6/8,S36.5/5)
- 6/ 石子順造,鈴木慶則,伊藤隆史『フェニックス』1号刊行。
- 7/ 3 静流会第16回展於沼津商工会議所(-7)。(沼津朝日1/26,2/11,6/21,24,7/5,沼津毎日6/19,静岡6/20)
- 7/ 7 松島畫舫展観35周年記念展於東京松島畫舫(-16)。中村岳陵《青嵐》
- 7/ 7 池上舜《安全記念像》除幕式於清水造船所。(静岡7/8,毎日静岡版7/8*,読売静岡B版7/13*)
- 7/11 水彩画協会展於静岡吉見書店(-17)。(静岡7/2)
- 7/ 丹羽勝次個展於静岡扇子屋(-31)。(静岡7/13)
- 7/13 肅燦宝個展於静岡安心堂(-19),於沼津イナノ文具店(28-8/4)。(毎日静岡版7/13,静岡7/30)
- 7/14 伊藤孝之日本画展於清水戸田書店(-18)。(静岡7/13,14,読売静岡B版7/14,朝日駿遠版7/15)
- 7/18 平岡朴斎逝去。47歳。(毎日静岡版7/19)
- 7/18 県版画協会展於静岡吉見書店(-24)。(静岡7/2)
- 7/ ダグラス・カー,安良里に滞在(-8/)。(静岡8/16)
- 7/20 美術文化協会第20回展浜松於浜松松菱(-24)。(浜松民報2/1,5/10,13,7/26,毎日遠州版7/22,中日遠州版7/22)
- 7/ ポール・オットー・マッテ静岡滞在(-10/)。(朝日静岡版7/22,読売静岡B版10/19)
- 7/25 国画会会員県内作家展於静岡吉見書店(-31)。(静岡7/2,26,27,浜松民報7/23,毎日静岡版7/26,静岡7/27,朝日静岡版7/27,読売静岡B版7/28)
- 8/ 現代日本版画コンクール於ニューヨーク・アジアハウス(-)。山口源《occasion》他2点、高木俱《転生》。(沼津朝日7/31)
- 8/ 杉山有色紙展於静岡扇子屋(-15)。(読売静岡B版8/3,4,静岡8/10)
- 8/ 2 伊藤英治・伊奈功・服部義昭三人展於浜松松菱(-7)。(浜松民報8/1,5,中日遠州版8/2)
- 8/ 2 松涛塾第2回展於浜松松菱(-7)。(浜松民報8/6)
- 8/ ル・ポー第3回展於静岡吉見書店(-7)。(静岡8/3)
- 8/ 8 上田臥牛個展於東京文藝春秋画廊(-13)。
- 8/ 8 一ノ瀬翠展於静岡市産業会館(-14)。(読売静岡B版8/7,13)
- 8/ 9 県美術家協会、美術館建設陳情。(静岡8/10)
- 8/ 9 現代一流画家による淡彩・素描・リトグラフ展於浜松松菱(-14)。(浜松民報8/9,17)
- 8/11 森田安次遺墨展於静岡吉見書店(-14)。(読売静岡B版8/12,毎日静岡版8/14)
- 8/12 かつば展第3回於静岡市産業会館(-16)。(静岡8/12,朝日静岡版8/12,13,毎日静岡版8/12,読売静岡B版8/13,14)
- 8/12 川瀬実平展於島田知新(-16)。(朝日静岡版7/12)
- 8/13 特選絵画展於静岡安心堂(-19)。(静岡8/13,朝日駿遠版8/15)
- 8/15 北川民次「生きる能力と英知を」(中日8/15)
- 8/16 光洋会第1回展於浜松松菱(-18)。(中日遠州版8/16,浜松民報8/12,18)
- 8/ 八木清次油彩小品展於静岡扇子屋(-31)。(読売静岡B版8/20)
- 8/19 武者小路実篤・高須光治・松本長三郎展於浜松松菱(-21)。(浜松民報8/18,20,中日静岡版8/20)
- 8/23 日本の都市スケッチ展於東京白木屋(-28)。
- 石川滋彦《静岡市役所付近》高島達四郎《香貫山の富士と沼津の街》(中日駿遠版8/26)
- 8/23 斎藤真一個展於東京文藝春秋画廊(-28)。
- 8/23 新しい芸術展於静岡吉見書店(-28)。(毎日静岡版8/13,静岡8/24,浜松民報8/24,読売静岡A版8/27)
- 8/25 県日本画展於静岡市産業会館(-30)。(読売静岡B版8/24)
- 8/27 日本人の手・現代の伝統工芸展於東京国立近代美術館(-9/25)。芹沢銈介《形絵染麻地いろは屏風》《麻地鳥花文一衣》
- 8/ 鈴木福富展於静岡安心堂(-31)。(毎日静岡版8/31)
- 8/30 北川民次『メキシコの誘惑』刊行。(中日9/11)
- 8/30 鈴木信康・鈴木重種展於浜松松菱(-9/4)。(静岡8/21)
- 9/ 1 第45回二科展於東京都美術館(-20)。

- 北川民次《白と黒》出品。
新入選者。(朝日静岡版8/28)
- 9/ 1 第45回院展於東京都美術館(-20)。
中島多茂都《山と雲》《岩と水》
- 9/ 1 平井俊男スケッチ展於清水戸田書店(-7)。(毎日静岡版8/31,朝日静岡版8/31,読売静岡B版8/31)
- 9/ 1 前田守一版画展於静岡扇子屋(-9/7)。(毎日静岡版8/27,9/6,朝日静岡版9/4,静岡9/7,読売静岡B版9/7)
- 9/ 2 静岡漫画会第4回展於静岡江崎書店(-8)。
(毎日静岡版8/26,読売静岡B版8/30)
- 9/ 4 稲川一郎・横関武展於富士宮吉沢文具店(-7)。
(静岡8/31,読売静岡B版9/3,毎日静岡版9/4)
- 9/ 5 清光社第1回工芸展於静岡吉見書店(-11)。
(静岡9/7,8,14)
- 9/ 6 田中修滯欧油絵近作展於浜松松菱(-11)。(浜松民報9/5,9,中日遠州版9/6,静岡9/7,毎日遠州版9/8,9)
- 9/ 8 静岡県水彩画協会第10回展於県民会館(-11)。
(静岡9/7,毎日遠州版9/7,静岡版9/10朝日駿遠,駿豆版9/8,読売静岡B版9/8,11)
- 9/12 清光社同人展於清水市青少年会館(-14)。
(静岡9/8,14)
- 9/12 一土会百回記念作品展於静岡吉見書店(-18)。
(毎日静岡版9/6,読売静岡B版9/10,静岡9/14)
- 9/15 東郷青児作品即売会於熱海山喜(-19)。(静岡9/17)
- 9/16 仲安銀蔵個展於静岡扇子屋(-30)。(朝日静岡版9/17,読売静岡B版9/20,静岡9/25)
- 9/19 山口源版画個展於東京養清堂画廊(-24)。
- 9/19 伊藤隆史・伊藤詩朗・大沢富子・鈴木慶則・飯田昭二・前田守一・伊藤勉・石子順造 八人展於静岡吉見書店(-25)。(朝日駿遠版9/20,読売静岡B版9/20,静岡9/21)
- 9/20 森島利弥・小粥重明・鈴木到道三人展於静岡江崎書店(-26)。(朝日駿遠版9/20)
- 9/20 小林和作作品展於浜松松菱(-25)。(浜松民報9/6,19,毎日遠州版9/21)
- 9/21 井上市三郎展於東京村松画廊(-26)。
(浜松民報9/13,27)
- 9/22 第24回新制作展於東京都美術館(-10/10)。
秋野不矩《人物A》《人物B》出品。
- 9/ 松本竣二遺作展於静岡吉見書店(-10/2)。
(毎日静岡版9/29)
- 9/30 県美術家協会、県立美術館建設陳情。
(読売静岡B版10/1)
- 10/ 1 藤野嘉市小品展於静岡扇子屋(-15)。(朝日駿遠版10/2,静岡10/9,読売静岡B版10/4,13)
- 10/ 1 ハインツ・ハイエクー・ハアルケ抽象光画展於県民会館(-5)。(読売静岡B版9/28)
- 10/ 3 静岡県版画協会第12回展於静岡吉見書店(-9)。
(毎日静岡版9/29,朝日駿遠版9/29,読売静岡B版9/30,10/7)
- 10/ 4 六灯会第4回展於浜松松菱(-9)。(浜松民報10/6,10)
- 10/ 6 二紀会具象小品展於静岡松坂屋(-9)。(静岡10/3,読売静岡B版10/6)
- 10/ 7 山下清新作展於清水女子高校講堂(-11)。(静岡10/5,9,読売静岡B版10/5,朝日駿遠版10/6,毎日静岡,遠州版10/8)
- 10/10 新槐樹社静岡支部展於静岡吉見書店(-16)。
(静岡10/9,16,朝日駿遠版10/7,9,読売静岡B版10/9)
- 10/11 第14回二紀会展於東京都美術館(-30)。
水野欣三郎《詞梨帝母》出品。
- 10/11 野田好子個展於東京フォルム画廊(-15)。
- 10/11 行動美術具象派会員小品展於浜松松菱(-16),
於静岡吉見書店(24-30)。(毎日遠州版10/12,浜松民報10/13,24)
- 10/12 第28回独立展於東京都美術館(-30)。
山道栄助《作品A》《作品B》《作品C》
市川正三、八木昌一入選。(朝日静岡10/9)
- 10/16 八木清次小品展於静岡扇子屋(-31)。(朝日駿遠版10/2,17,静岡10/16,毎日静岡版10/17,読売静岡B版10/18)
- 10/17 東彩会第2回日本画展於静岡吉見書店(-23)。
(毎日静岡版10/14,遠州版10/17,朝日静岡版10/15,静岡10/16,読売静岡B版10/16)
- 10/23 斎藤清版画展於静岡すみや(-31)。

- (静岡10/20,23)
- 10/ 「面と詩と花と」展於静岡ウイーン(-11/)。
(静岡10/23)
- 10/24 吉原市美術展第1回展於吉原市民会館(-2)。
(読売静岡B版10/23)
- 10/25 曾宮一念近作油絵展於東京兜屋画廊(-30)。
(浜松民報10/18,朝日11/1)
- 10/28 前田千寸逝去。享年80。(朝日駿豆,駿遠版10/29,沼津毎日10/29,黎明10/29,静岡10/29,S59,8/26,沼津朝日10/29,30,11/1,2)
- 11/ 1 第3回日展於東京都美術館(-12/6)。
青島淑雄《居間》近藤浩一路《雲》野島青茲《モデル》三橋良朗《朝装》漆畑廣作《常盤山》森正一《陸橋の見える風景》佐伯喜三郎《渡船場》池田正司《構内雨日》浅井行雄《裸婦立像》澤田政廣《蒼穹》杉本宗一《座像》堤達男《風》館野弘青《裸婦立像》平野敬吉《女》和田金剛《作品第2》二橋美衡《彫金打出朝湯 壁面裝飾額》般若侑弘《青い石》出品。野島青茲、吉花賞受賞。入選者。(静岡9/25*,10/25,27,中日駿遠版10/22,28,毎日静岡版10/28,静岡11/3)
- 11/ 1 柴田俊個展於静岡扇子屋(-15)。(静岡11/1,6,毎日静岡版11/2,朝日駿豆版11/2,読売静岡B版11/3,10)
- 11/ 1 賀茂真淵遺墨展於浜松市立図書館(-8)。
(静岡11/2,浜松民報11/1,8)
- 11/ 5 第2回東京国際版画ビエンナーレ展於東京国立近代美術館(-12/4)。山口源《遇》《従》出品。
- 11/ 越智藤市《江川坦庵石像》(静岡11/5,読売静岡版S27.9/19)
- 11/ 6 加藤大象個展於県民会館(-10)。(静岡10/30)
- 11/ 6 水野欣三郎《丸山方作胸像》除幕式於細江正明寺。(毎日静岡版3/4,中日駿遠版6/19*,読売静岡B版11/7*,中日11/7*)
- 11/10 第4回安井賞候補新人展於東京国立近代美術館(-12/25)。犬塚友吉《白聖史I》《白聖史II》
- 11/10 福島繁太郎逝去。享年65。(静岡11/11,伊豆毎日11/11,熱海11/11)
- 11/15 清川泰次展於浜松松菱(-20)。(浜松民報11/5,16,毎日遠州版11/15)
- 11/15 現代洋画家綜合展於浜松商工会館(-19)。(浜松民報11/16,19)
- 11/16 静岡県美術展第14回展於県民会館・静岡松坂屋・田中屋(-20)。移動展於沼津商工会議所(11/26-28)・於浜松日楽ビル(12/1-4)。
審査員:原精一、麻生三郎、互井開一、山口源、岩橋永遠、村松外次郎、宮之原謙。(浜松民報10/13,25,11/16,12/3,静岡10/23,30,11/15,16,20,伊豆毎日11/12,16,毎日静岡版10/14,11/1,16,朝日駿豆,駿遠版10/14,11/15,24,中日駿遠版11/16,17,18,19,20,23,12/2,読売静岡B版11/16)
- 11/16 三行舎第11回展於浜松市立図書館(-20)。(浜松民報10/29,11/5,10,17,中日遠州版11/16)
- 11/ 小谷和夫展於静岡扇子屋(-30)。
(読売静岡版11/29)
- 11/23 大村政夫《朝》除幕式於静岡児童会館。
(静岡11/24)
- 11/24 土味川独甫展於東京銀座画廊(-29)。(浜松民報11/26)
- 11/25 静宣美展第1回展於静岡新聞沼津支局(-27)。
(静岡11/24,沼津朝日11/27)
- 11/26 静流会小品展於沼津商工会議所(-28)。
(沼津朝日11/27)
- 11/26 県展入賞者作品展於沼津商工会議所(-28)。
(静岡10/30,沼津朝日10/29,11/27,沼津毎日11/17,黎明11/19)
- 11/27 世界ポスター展於静岡市産業会館(-12/4)。
(朝日静岡版11/29,読売静岡B版12/4)
- 11/28 今藤晴一・加茂辰蔵・大島一畝展於静岡喜楽(-30)。(静岡11/20,27)
- 11/28 現代洋画大家小品展於静岡吉見書店(-12/4)。
(朝日駿豆,駿遠版11/30,読売静岡B版12/2)
- 12/ 1 飯田昭二デッサン展於静岡扇子屋(-15)。
(静岡12/4,毎日静岡版12/5,朝日静岡版12/5,読売静岡B版12/6)
- 12/ 3 棟方志功展於浜松谷島屋書店(-15)。
(浜松民報12/5)
- 12/ 5 増田大罫近作展於静岡安心堂(-11)。

- (朝日静岡版12/7,読売静岡B版12/9)
- 12/ 8 寺平誠介小品展於静岡中島屋(-30)。(静岡12/11,読売静岡B版12/13)
- 12/ 9 三島美術協会展於米バサティナ(-S36.1/4)。(朝日静岡版12/28,読売静岡B版S36.1/1,三島ニュースS36.1/9,三島民報S36.2/5,毎日静岡版12/31)
- 12/13 新制作派日本画展於静岡安心堂(-25,-S36.1/5)。(毎日静岡版12/13,静岡12/15,読売静岡B版12/15,朝日静岡版12/28)
- 12/13 現代洋画大家小品展於浜松松菱(-18)。(浜松民報12/14)
- 12/15 佐野記念図書館へ絵画寄贈。(三島民報12/15)
- 12/16 鈴木福富染色展於静岡扇子屋(-31)。(静岡12/18)
- 12/17 芹沢晋吾新作展於沼津イナノ文房具店(-21)。(沼津朝日12/16,朝日駿豆版12/16)
- 12/20 東南アジア絵画展於吉原商議所(-20)。(読売静岡B版12/17)
- 12/20 古田晴久展於浜松松菱(-25)。(浜松民報12/21,24)
- 12/20 川島コレクション洋画展於浜松谷島屋書店(-25)。(浜松民報12/21,23)
- 12/ 《川口直吉胸像》除幕於清水第三小学校。(読売静岡B版12/20)
- ・ 和田金剛《丑》(沼津朝日12/2,6,8,10,15,27,28)
- 1961 昭和36年**
- 1/ 1 宮尾しげを「田楽」(朝日静岡版1/1)
- 1/ 1 岡田紅陽写真展於三島楽寿園(-15)。(三島ニュースS35.12/11)
- 1/ 1 新春新作25人展於静岡扇子屋(-31)。(静岡1/8,22,読売静岡B版1/12)
- 1/ 『フェニックス』2号刊行。
- 1/ 井出栄油絵展於富士宮吉沢文具店(-6)。(読売静岡B版1/5)
- 1/ 2 写実派協会第19回展於静岡吉見書店(-8)。(朝日静岡版1/5)
- 1/ 3 中村岳陵、第31回朝日文化賞受賞。
- 1/ 4 前田守一まんようふがく展於清水戸田書店(-10)。(静岡1/10)
- 1/ 5 栗田雄逝去。65歳。(美術年鑑S.37)
- 1/ 6 山口源・曾宮一念NHK新春対談。(沼津朝日S35.12/31)
- 1/11 前田守一個展於東京カフェ・ジロー(-2/10)。
- 1/14 浜松美術家協会発足。(朝日静岡版1/11,浜松民報1/16)
- 1/ 白鳥泰彦・小沢昭平・小林幹於展於清水戸田書店(-21)。(読売静岡B版1/19)
- 1/21 鈴木慶則個展於東京村松画廊(-25)。
- 1/22 佐野和夫展於清水戸田書店(-28)。(静岡1/14)
- 1/23 黒田嘉治《鹿に乗った少年像》設置於熱海。(静岡1/24,読売静岡B版1/24)
- 1/24 伊藤勉個展於静岡市中央公民館(-28)。
- 1/24 同時代展於浜松松菱(-29)。(静岡1/22,浜松民報1/19,28)
- 1/25 新春淡彩素描展於富士宮芙蓉堂(-31)。(静岡1/26,読売静岡B版1/28)
- 1/25 新目元子《祈る人》静岡少年院に寄贈。(静岡1/26,毎日静岡版1/26)
- 1/ 柴田隆二作品展於静岡日米文化センター(-)。(読売静岡B版1/26)
- 1/31 鈴木七郎展於大阪大阪ガスサロン(-2/5)。(浜松民報1/27)
- 2/ 1 池谷黙堂、台湾沖繩訪問(-2/14)。(静岡1/27,読売静岡B版1/28,毎日静岡版1/28)
- 2/ 2 第10回奎星会展於東京都美術館(-8)。(静岡2/5)
- 2/ 3 曾宮一念淡彩展於東京松屋(-11)。(浜松民報1/10,3/6,東京2/6,日経2/7,産経2/8,みづゑno.671,三彩no.135)
- 2/ 5 斎藤準児個展於静岡吉見書店(-11)。
- 2/13 芸術院会員展於静岡安心堂(-20)。(静岡2/19)
- 2/ 江崎金彦・白沢良一・田中芳三写真展於静岡谷島屋書店(-19)。(静岡2/14)
- 2/14 古家新展於浜松松菱(-19)。(浜松民報2/14,18)
- 2/16 毎日写真第7回展於静岡田中屋(-20)。(毎日静岡,遠州版2/14,16,17,18,19,20)
- 2/16 望月康男・斎藤馨展於静岡扇子屋(-28)。(静岡2/5,19,毎日静岡版2/15,朝日駿遠版2/16)
- 2/ 大口登個展於静岡吉見書店(-26)。(朝日駿遠版2/23,25,静岡2/26)

- 2/28 桜桃会第2回展於浜松松菱(-3/5)。(浜松民報2/24,3/4,毎日遠州版2/27)
- 3/ 松永哲於個展於静岡扇子屋(-15)。(静岡3/5,毎日静岡版3/5,朝日駿遠版3/5,読売静岡B版3/8)
- 3/ 2 沢村美佐子個展於東京村松画廊(-6)。(三彩no.137)
- 3/ 4 第21回美術文化協会展於東京都美術館(-16)。猪飼重明《テロ1》《テロ2》中村博《作品no.1》*《作品no.2》《作品no.3》伊藤真介《霽日》**山本桂《落日》**鈴木英利《自滅》***寺田伊勢男《IT-61-1》***村上宏代。(静岡3/5,朝日駿豆,駿遠版3/5,毎日静岡,遠州版3/6,浜松民報3/6,7,中日遠州版4/22*,27**,28***)
村上宏代、寺田伊勢男、入賞。(静岡3/8)
- 3/ 5 石神白竜・柴田俊二人展於清水戸田書店(-12)。(静岡3/5,19,毎日静岡版3/5)
- 3/ 6 錦綵会押絵二人展於静岡吉見書店(-12)。(静岡3/13)
- 3/ 7 曾宮一念近作淡彩画展於浜松松菱(-12)。(毎日遠州版3/8)
- 3/ 増井富次近況。(静岡3/10)
- 3/16 染色四人展於静岡扇子屋(-31)。(静岡3/19,毎日静岡版3/19)
- 3/17 福山進展於浜松松菱(-19)。(浜松民報3/11)
- 3/19 堤達男《ともしびの像》沼津第二小学校。(静岡3/20)
- 3/ 杉山有近況。(静岡3/23)
- 3/ 大城千鶴日本画展於浜松松菱(-26)。(浜松民報3/22)
- 3/22 海老原喜之助・北川民次・福沢一郎三人展於東京国際画廊(-29)。
- 3/22 秋野不矩日本画展於県民会館(-25)。(毎日静岡,遠州版3/8,14,22)
- 3/26 明治初期洋画展於神奈川県立近代美術館(-4/23)。川村清雄《虫干図》《福沢諭吉像》《少女像》石川欽一郎《風景》《風景》
- 3/27 坂上繁個展於静岡吉見書店(-4/2)。(静岡3/28,朝日静岡版3/28,毎日静岡版3/28,浜松民報3/28)
- 3/ 市野三接・渥美真弘・大庭祐輔 真白会展於浜松松菱(-4/2)。(浜松民報S35.11/19,S36.4/3)
- 3/28 毎日芸術大賞受賞記念中村岳陵展於東京日本橋三越(-4/2)。(東京3/30,日経3/31,芸術新潮12-2)
- 3/28 小堀稜威雄展於東京上野松坂屋(-)。(沼津朝日3/18)
- 3/30 浜松美術家協会会員第1回展於浜松商工会館(-4/2)。(浜松民報3/29,4/3,朝日静岡版1/11,駿遠版3/30,毎日遠州版3/30,中日遠州版3/31)
- 3/ 堤達男《中村圓一郎像》於本川根町。(静岡S35.6/29,12/24,S36.2/5,中日遠州版2/7)
- 3/ 堤達男《夜明け》下田賀茂支庁舎。(静岡2/12,朝日駿遠版3/12)
- 4/ 1 第11回モダンアート協会展於東京都美術館(-19)。入選者(静岡4/2)
- 4/ 1 第29回日本版画協会展於東京都美術館(-19)。入選者。(沼津朝日4/2,朝日駿豆版4/4,三島民報4/5)
- 4/ 1 県文化会館文化課を吸収し,県教育委員会文化課新設。(朝日静岡版4/1,毎日静岡版4/1)
- 4/ 1 第1回中部旺玄展於県民会館(-5)。(静岡4/2,読売静岡B版3/31)
- 4/ 1 早川実版画展於静岡扇子屋(-15)。(静岡4/2,毎日静岡版4/6,朝日駿豆,駿遠版4/8)
- 4/ 集団アート美術展於焼津日本生命(-5)。(静岡4/2)
- 4/ 坂上繁子個展於静岡吉見書店(-5)。(静岡4/2)
- 4/ 7 静流会小品展於沼津イナノ文房具店(-9)。(沼津朝日3/8,18,4/7,沼津毎日4/1)
- 4/ 8 日本画洋画巨匠力作展於浜松商工会館(-10)。(毎日遠州版4/1,浜松民報4/5,10)
- 4/10 水彩連盟静岡支部第1回展於静岡吉見書店(-16)。(毎日静岡版4/7,朝日駿豆,駿遠版4/8,静岡4/9,16)
- 4/11 松島達太郎展於浜松松菱(-16)。(朝日駿遠版4/2,12,浜松民報4/11,12)
- 4/12 私のコレクション展於浜松商工会議所(-13)。(浜松民報4/5,12)
- 4/13 和田金剛《大石仙作胸像》除幕式於榛原町グラウンド。(静岡4/14,毎日静岡東,中部版4/14,中部

- 版4/16,中日遠州版4/15,読売静岡B版4/16)
- 4/13 渡辺正一展於静岡市産業会館(-19)。
(朝日駿豆,駿遠版4/13)
- 4/14 ニナ・リッチ デザイン展於静岡松坂屋(-16)。
(朝日駿豆,駿遠版4/13)
- 4/15 堤達男《高橋郁郎像》除幕式於県柑橘試験場。
(静岡S35.11/14,S36.4/15,朝日駿豆,駿遠版4/13*,毎日静岡東,中部版4/14,静岡,西部版4/15)
- 4/15 創型会静岡支部第5回展於県民会館(-19)。
(毎日静岡西部版4/1,静岡4/16,18)
- 4/16 第9回日彫展於東京都美術館(-5/5)。
澤田政廣《不動》重岡建治《静夫君》《K君の首》堤達男《斎藤平三郎氏像》《鮎子の首》飛岡文一《ツイゴイネル》平野敬吉《アイヌの青年》和田金剛《裸女》(出品目録)
- 4/16 丹羽勝次個展於静岡扇子屋(-30)。(静岡4/16,朝日静岡版4/19,読売静岡B版4/20)
- 4/16 白沢良展於静岡日米文化センター(-30)。
(読売静岡B版4/16)
- 4/ 三文会第1回展於静岡吉見書店(-23)。(読売静岡B版4/19,静岡4/23)
- 4/18 東郷青児・服部正一・松本弘三 二科三人展於静岡市産業会館(-20)。(毎日静岡東,中,西部版4/14,18)
- 4/18 小野末近作展於浜松松菱(-23)。
(浜松民報4/17,22)
- 4/19 山内泉塾展於浜松谷島屋書店(-23)。
(浜松民報4/11,19,22)
- 4/20 香取正彦《栄西禅師像》開眼供養於掛川。(毎日遠州版S35.10/30,12/27,東,中,西部版4/21, 中日静岡版S35.12/27*,朝日静岡版1/12*,4/21,静岡4/19,郷土4/23*)
- 4/22 第35回国画会展於東京都美術館(-5/8)。
青木達弥《城跡A》《城跡B》渋川栄志《赤い流砂》《白い流砂》曾官一念《みなみ岳爆発》山村誠《巖頭応身》栗山茂《森の詩》《動物の詩》中川雄太郎《五十年》《伝説の森》山口源《星の黄昏》《冷酷な路傍》芹沢銈介《木綿型染名古屋帯》《芭蕉布型染着物》栗田雄遺作《旧い屋敷》
- 《海岸》《冬の塩久津》《秋》《自画像》《風景》《塩久津風景》《静物》《うすぐもり》出品。
柴田隆二初入選。(静岡4/28)
- 入選者。(朝日駿豆,駿遠版4/20,毎日静岡東,中,西部版4/20)
- 4/22 第38回春陽会展於東京都美術館(-5/8)。
入選者。(朝日駿豆,駿遠版4/20,毎日静岡東,中,西部版4/20)
- 4/24 現代写真展於県民会館(-30)。(朝日駿豆版4/25)
- 4/25 ナカムラ画廊現代洋画大家作品展於静岡吉見書店(-30)。(浜松民報4/24,静岡4/26,毎日静岡版4/26,朝日駿豆,駿遠版4/27,読売静岡B版4/29)
- 4/28 浜口陽三エッチング個展於賀茂郡静銀下田支店(-30)。
- 4/28 朴土会第2回展於浜松松菱(-30)。(浜松民報5/2)
- 杉本儀八鑄金展於浜松谷島屋書店(-5/5)。(浜松民報5/2,朝日駿遠版5/3)
- 5/ 1 朱明会展於静岡吉見書店(-7)。予定の田中憲之日本画展は中止。(朝日駿豆,駿遠版4/13,29)
- 5/ 1 鈴木福富個展於静岡扇子屋(-15)。(静岡4/30,5/7, 読売静岡B版5/7)
- 5/ 彩友会会員展於富士宮市民会館(-6)。
(読売静岡B版5/5)
- 5/ 2 堤達男《栄西禅師像》除幕式於金谷牧之原公園。(読売静岡B版S33.13,31,S34.4/23,静岡S34.1/21,3/10,S35.4/20,5/2,7/17,S36.4/21,27,5/3,S37.4/21,毎日静岡版S35.4/20,S36.5/3,中日S35.5/3,6/18,10/4,S36.3/2,5/3,朝日駿豆,駿遠版5/3:註:S34.搬入。S35.5仮除幕。S36.3/下旬据付。)
- 5/ 8 杉山有個展於静岡扇子屋(-14)。(静岡5/7,14)
- 5/ 8 三沢佐助展於静岡吉見書店(-14)。(朝日駿豆,駿遠版4/13,静岡5/7,14, 読売静岡B版5/10,15)
- 5/ 9 山下太郎・清水秀耕・県善三郎展於浜松松菱(-14)。(浜松民報5/2,9,毎日静岡西部版5/10,朝日駿遠版5/10)
- 5/ 9 アンデパンダン第7回展於浜松松菱(-14)。針生一郎講演会於野村證券ホール(5/14)。(毎日静岡西部版4/16,5/1,朝日遠州版4/25,浜松民報5/9,13,15,16,17,18,19,20)

- 5/10 第6回日本国際美術展於東京都美術館(-30)。
秋野不矩《少年と猫》北川民次《工場》野田好子
《作品》山口源《てのひらの告白》(美術年鑑S.37)
- 5/11 世界の現代版画展於田中屋(-18)。(目録,朝日駿
豆,駿遠版4/13,27,毎日静岡中部版5/1,中日駿遠
版5/2,3,5,7,18,静岡5/4,読売静岡B版5/10,11)
- 5/11 五月会日本画展於静岡安心堂(-17)。
野島清茲出品。(静岡5/10,読売静岡B版5/12)
- 5/15 県美術家協会第3回展・交流美術展於県民会館
(-19)。(静岡5/11,朝日駿豆,駿遠版4/13)
- 5/16 尚友会展於沼津西武(-23)。(毎日静岡東部版
5/16,17)
- 5/16 栗山茂版画展於静岡扇子屋(-31)。(静岡
5/18,21,朝日駿遠版5/19)
- 5/16 現代洋画人気作家展於浜松松菱(-18)。(毎日静
岡西部版5/1,17,浜松民報5/15,朝日駿遠版5/17,
中日遠州版5/18)
- 5/19 パキスタン古代文化展於静岡松坂屋(-30)。(毎
日静岡東,中,西部版5/18,20,21,22,23,24,25,26,27,
読売静岡B版5/18,静岡5/22,28)
- 5/19 高木俱展於静岡市産業会館(-25),於浜松谷島屋
書店(-6/3)。(読売静岡B版5/18,23,浜松民報5/31)
- 5/21 中国版画展於熱海市観光会館(-23)。(伊豆毎日
5/13,21,静岡5/13,熱海5/18,21,23)
- 5/23 滝沢清近作水彩画展於浜松松菱(-28)。(浜松民
報5/23,24,毎日静岡西部版5/24,朝日駿豆版5/24)
- 5/25 静流会第15回展於沼津ふじみね(-28),於県民会
館(6/1-5)。(沼津朝日1/21,,3/8,4/26,5/24,沼津
毎日5/24,毎日静岡東,中部版5/24,朝日駿豆版
5/24,駿遠版6/1,黎明5/24,静岡5/28)
- 5/27 新世紀美術協会移動展於吉原市民会館(-31)。
(静岡5/13,朝日駿豆版5/14,中日遠州版5/21,読
売静岡B版5/26)
- 5/29 藤野嘉市個展於静岡谷島屋書店(-6/4)。(毎日
静岡中部版5/25,静岡5/28,読売静岡B版5/31,
朝日駿遠版6/1)
- 6/ 1 第11回新興展於東京都美術館(-13)。
上田臥牛《波濤》(美術年鑑S.37)
- 6/ 1 県中央地方交流美術展於県民会館(-5)。
(朝日駿豆,駿遠版6/2)
- 6/ 1 一陽会静岡支部展於静岡吉見書店(-4)。(静岡6/2)
- 6/ 小林義司水彩画展於静岡扇子屋(-15)。
(静岡6/4,朝日駿遠版6/4,毎日静岡中部版6/6)
- 6/ ノーマ・チュアン水彩画、三島市へ寄贈。
(静岡6/4,読売静岡B版6/10)
- 6/ 2 相沢常樹個展於沼津イナノ文房具店(-4)。
(沼津朝日6/14)
- 6/ 4 澤田政廣《釈迦像》奉安式於日本山妙法寺。
(伊豆毎日6/2,4)
- 6/ 富士根南小学校校章作者、曾宮一念と判明。
(静岡6/6)
- 6/ 6 池田正司小品展於県民会館(-18)。(静岡6/11,
毎日静岡中部版6/11,読売静岡B版6/13)
- 6/ 6 壮炎会第16回展於浜松松菱(-11)。(浜松民報
6/6,7,中日遠州版6/7)
- 6/ 8 「曾宮一念 話の小窓」(読売静岡B版6/8)
- 6/11 芹沢銈介染絵染物小品展於東京中央画廊(-17)。
- 6/12 風友会第1回展於静岡谷島屋書店(-17)。
(毎日静岡中部版6/13)
- 6/12 郡山市美術展於静岡吉見書店(-18)。
(毎日静岡中部版6/2)
- 6/13 東金蘭会展於神戸大丸(-18)。
野島青茲《菖蒲》
- 6/16 鈴木雁・鈴木公子スタイル画展於静岡扇子屋
(-30)。(読売静岡B版6/16,静岡6/18)
- 6/ テル・ヤス個展於静岡谷島屋書店(-25)。
(静岡6/21)
- 7/ 1 浜松市民文化会館開館。(中日遠州版S30.9/21,
S31.5/24,8/13,14,23,S32.12/3,27,S33.6/21,S35.
9/28,S36.5/16,6/22,毎日遠州版S31.10/17,
S32.5/28,6/9,27,S35.1/1,7/3,遠州S32.1/1,6/10,
7/1,3,30,8/16,23,9/3,10/1,11/20,12/2,25,S33.
5/6,6/2,S33.6/22,11/10,浜松民報S34.1/22,2/14,
16,3/26,11/17,25,S35.3/4,5/17,9/15,16,9/28,
S36.6/15,29,30,7/20,8/30,9/13,静岡7/2)
- 7/ 1 中川雄太郎版画作品展於清水戸田書店(-6)。
(静岡7/2,3)
- 7/ 1 山田安個展於静岡扇子屋(-15)。

- (静岡7/2,読売静岡B版7/6)
- 7/ 1 郷土諸家遺墨展於浜松市立図書館(-10)。
(中日静岡版7/6)
- 7/ 東彩会第3回展於静岡吉見書店(-9)。(毎日静岡中部版7/4,読売静岡B版7/6)
- 7/ 6 中村岳陵四天王寺金堂壁画下絵展於東京松屋(-12)。(産経7/11)
- 7/ らばん会展於静岡吉見書店(-23)。(静岡7/16)
- 7/ 7 和田金剛《舞天女》完成於沼津永明寺。
(沼津朝日7/5,朝日駿豆版7/9*)
- 7/11 光洋会日本画展於浜松松菱(-16)。(浜松民報7/13,14)
- ・ 清水市に中電ショールーム、オープン。
- 7/13 染色3人展於清水中電ショールーム(-19)。
(静岡7/14,読売静岡B版7/19)
- 7/14 第1回銀彩会展於東京銀座松坂屋(-20)。
北川民次《花と工場》《休日の瀬戸》
- 7/15 平岡朴斎遺墨展於県民会館(-18)。
(読売静岡B版7/15)
- 7/16 河童扇子展於静岡扇子屋(-31)。(静岡7/16,毎日静岡中部版7/21,読売静岡B版7/21)
- 7/19 柴田俊油絵展於清水戸田書店(-)。
(読売静岡B版7/19)
- 7/24 現代中国書道展於県民会館(-30)。(毎日静岡東,中部版7/12,25)
- 7/24 SAN元会第8回展於静岡吉見書店(-30)。
(毎日静岡中部版7/18,静岡7/29)
- 7/24 遠州美術会第5回展於浜松市民文化会館(-30)。
(浜松民報6/17,7/25,27,28,中日遠州版7/26)
- 7/26 前田守一色紙展於清水戸田書店(-31)。
(朝日駿遠版7/26, 読売静岡B版7/27)
- 8/ 1 月見里茂個展於清水戸田書店(-10)。(静岡7/31,読売静岡B版8/2,3,5,朝日静岡版8/4)
- 8/ 1 永野錦七日本画展於静岡扇子屋(-15)。
(読売静岡B版8/1,2,5,静岡8/4,6)
- 8/ 1 一ノ瀬昌堂・吉野不二太郎二人展於静岡中電ホール(-6)。(朝日静岡版8/4)
- 8/ 淡彩・素描展於浜松ナカムラ画廊(-12)。
(浜松民報8/8)
- 8/ 8 鈴木章子展於清水中電ショールーム(-13)。
(静岡8/10)
- 8/ やいづのうた詩展於焼津華苑(-16)。(静岡8/13)
- 8/10 ピカソ陶器とグラヴェル展於静岡松坂屋(-13)。
(静岡8/10,11)
- 8/11 鈴与美術展於清水戸田書店(-17)。
(静岡8/10,読売静岡B版8/15,16)
- 8/16 仲安銀蔵レリーフ展於静岡扇子屋(-31)。
(静岡8/13,20)
- 8/21 鈴木七郎・鈴木信康展於大阪道頓堀画廊(-27)。
(浜松民報8/21)
- 8/ 形象派小品展於静岡吉見書店(-27)。
(浜松民報8/24,読売静岡B版8/23)
- 8/25 夏目相孝 近況。(毎日静岡西部版8/25,中日遠州版9/8)
- 8/25 望月清作カッパ展於清水戸田書店(-31)。(毎日静岡中部版8/22,読売静岡B版8/24,25,静岡8/27)
- 8/28 松浦せつ子・鷲坂博規二人展於静岡吉見書店(-9/2)。
- 8/29 田中修淡彩画展於浜松松菱(-9/3)。(浜松民報8/30)
- 8/31 静岡県水彩画協会第11回展於県民会館(-9/3)。
(静岡8/20,31,読売静岡B版8/29,31,浜松民報8/29,朝日駿豆,駿遠版8/31)
- 9/ 1 第46回二科展於東京都美術館(-20)。
北川民次《工場A》《工場B》《花と煙突》出品。
(静岡9/10)
入選者。(朝日駿豆,駿遠版8/29,毎日静岡東,中部版8/29)
- 9/ 1 第46回院展於東京都美術館(-20)。
中島多茂都《知床》入選者。(朝日駿遠版8/29)
- 9/ 1 第16回行動美術展於東京都美術館(-20)。
入選者。(静岡8/28,朝日駿豆,駿遠版8/29)
- 9/ 1 斎藤磐油絵展於清水戸田書店(-10)。
(読売静岡B版8/31,9/2,静岡9/3)
- 9/ 1 大沢富子個展於清水中電ショールーム(-9)。
(静岡8/31,毎日静岡東,中部版9/9)
- 9/ 1 前田守一展於静岡扇子屋(-15)。(毎日静岡中部版8/29,静岡9/3,読売静岡B版9/5)
- 9/ 2 「しごのころ」連載。中村良七郎、水野欣三郎、

- 犬塚友吉、佐藤蕪堂、米田一夫、猪飼重明、井上市三郎、伊藤輝彦、相生垣貫二、富田衛司、中村博、足立行男、河村家正、富田浩司、山内泉、古田晴久、縣善三郎、金原秋夫、袴田猪太郎、堤主一郎ほか。(浜松民報9/2,4,5,6,7,11,12,13,17,18,19,26,29,10/7,9,11,13,14,15,21)
- 9/ 4 羊雲会展於静岡吉見書店(-10)。
- 9/ ∞展於浜松松菱(-)。(浜松民報9/5,8)
- 9/ 8 清川泰次、東京世田谷にアトリエ完成披露。(静岡9/3)
- 9/12 杉山有個展於静岡谷島屋書店(-17)。(静岡9/10,読売静岡B版9/12)
- 9/12 犬塚友吉展於浜松松菱(-17)。(浜松民報9/8,17)
- 9/13 田川勤次展於浜松ナカムラ画廊(-18)。(浜松民報9/13,19)
- 9/15 《山口世陽胸像》除幕式於葦山中学。(静岡9/16,中日駿遠版9/19*,毎日静岡中部,西部版9/20)
- 9/15 長谷川彰一展於焼津紫苑(-30)。(静岡9/16)
- 9/16 望月康男・斎藤磐二人展於静岡扇子屋(-30)。(毎日静岡版9/14,静岡9/17,読売静岡B版9/20)
- 9/19 藤田嗣治・北川民次展於酒田市本間美術館(-10/3)。
- 9/ 河原崎律水彩画展於清水戸田書店(-23)。(読売静岡B版9/20)
- 9/21 石田善彦展於吉原一ビル(-25)。(浜松民報9/21)
- 9/22 第25回新制作展於東京都美術館(-10/10)。
秋野不矩《女たち(黒髪)》出品。
- 9/22 グループ開拓展於静岡吉見書店(-26)。
柴田隆二他。(静岡9/24,朝日駿遠版9/22,読売静岡B版9/26)
- 9/ 森芳彦・戸塚晃彦展於清水戸田書店(-30)。(毎日静岡中部版9/27,読売静岡B版9/27)
- 9/26 「ほしい県美術館」(読売静岡B版9/26)
- 9/26 澤田政廣展於東京日本橋高島屋(-10/1)。(東京9/30)
- 9/26 足立行男展於浜松松菱(-10/1)。(浜松民報9/19,27)
- 9/27 東京芸大彫刻研究室《青年の像》除幕式於御殿場国立中央青年の家。(静岡8/1,9/21,28,毎日静岡版9/28,朝日駿豆,駿遠版9/28,読売9/28)
- 9/27 県写真サロン展於静岡吉見書店(-10/1)。(朝日駿遠版9/28)
- 9/30 長谷川彰一渡仏。(静岡9/12,毎日静岡版9/26) / 池上舜後援会結成。(静岡10/1)
- 10/ 1 法月俊郎色紙展於清水戸田書店(-7)。(読売静岡B版10/1,静岡10/2,朝日駿遠版10/2)
- 10/ 1 柴田隆二写真個展於静岡ウイーン(-14)。
- 10/ 1 滝沢清個展於静岡扇子屋(-15)。(静岡10/1)
- 10/ 2 静岡県版画協会第26回展於静岡吉見書店(-8)。(静岡9/10,10/1,3,毎日静岡中部版9/10,27,読売静岡B版9/26,10/4)
- 10/ 2 アリエ会第1回展於静岡谷島屋書店(-9)。(静岡10/1)
- 10/ 3 龍駿介富士油絵展於静岡産業会館(-8)。(静岡9/27,10/2,朝日駿豆,駿遠版10/3)
- 10/ 3 高野山秘宝展於静岡松坂屋(-8)。(毎日静岡版9/22,10/1,4,6,静岡9/29,10/3,6,朝日駿豆,駿遠版10/3,読売静岡B版10/4)
- 10/ 4 長谷川晶展於浜松ナカムラ画廊(-10)。(浜松民報10/5,6)
- 10/ 5 郷土文化遺品展於三島大社(-15)。(三島民報9/30,10/5,10)
- 10/ 大塚恭則展於富士芙蓉堂(-9)。(朝日駿豆版10/6)
- 10/ 伊藤隆史・伊藤詩郎展於清水戸田書店(-14)。(朝日駿豆,駿遠版10/11,読売静岡B版10/11)
- 10/10 曾宮一念個展於富士宮芙蓉堂(-16)。(静岡10/14,中日駿遠版10/15)
- 10/10 六灯会第5回展於浜松松菱(-15)。(浜松民報10/10,11)
- 10/11 二紀会第15回展於東京都美術館(-30)。
水野欣三郎《メタモルフォーセス》《飛翔》(浜松民報9/4,静岡9/14*)。
入選者。(静岡10/8,毎日静岡版10/8,朝日駿遠版10/8,読売静岡B版10/8)
- 10/11 現代版画六人展於清水中電ショールーム(-15)。(朝日駿遠版10/8)

- 10/11 日本近代文学作品展於静岡松坂屋(-15)。
(静岡10/9,11,14)
- 10/12 第29回独立展於東京都美術館(-30)。
児島善三郎《西伊豆》(静岡10/28)
入選者。(毎日静岡版10/8)
- 10/12 宮下美術店名作日本画展於熱海観光会館(-14)。
(伊豆毎日10/11)
- 10/13 若山牧水遺墨展於沼津西武(-17)。(沼津朝日
10/7,14,21,22,24,25,26,27,沼津毎日10/13,朝日駿
豆版10/15)
- 10/15 大橋正邦色紙展於清水戸田書店(-21)。(静岡
10/15,読売静岡B版10/15,毎日静岡版10/17)
- 10/ 茜会絵画第1回展於静岡扇子屋(-31)。
(静岡10/15)
- 10/16 清川泰次個展於東京フジカワ画廊(-21)。(《白の
作品》(美術年鑑S.37*,静岡10/15,みづゑno.681)
- 10/16 土井俊泰個展於東京村松画廊(-20)。
(みづゑno.681)
- 10/17 尚光会展於浜松松菱(-19)。(浜松民報10/19)
- 10/ 亀山隆重展於静岡ウイーン(-22)。
(朝日駿豆,駿遠版10/17)
- 10/19 浜松美術協会展於浜松市民会館(-22)。(浜松
民報8/30,9/13,15,10/19,21,25,中日遠州版
10/15,朝日駿遠版10/22)
- 10/20 つるやホテル畠山コレクション展於熱海観光会館
(-21)。伊東深水他来熱。(朝日駿豆版10/18,伊
豆毎日10/20,静岡10/22)
- 10/20 七彩会展於浜松松菱(-22)。(朝日静岡版10/17浜
松民報10/21)
- 10/22 早川実版画展於清水戸田書店(-21)。
(静岡10/22,朝日駿遠版10/22)
- 10/23 落合英男個展於静岡谷島屋書店(-29)。
- 10/24 寺島紫明展於静岡安心堂(-30)。
(静岡10/25,朝日静岡版10/26)
- 10/24 清水秀耕展於浜松松菱(-29)。
(浜松民報10/25,中日遠州版10/25)
- 10/28 月見里シゲル展於興津公民館(-11/5)。(朝日静
岡版10/26,毎日静岡版10/27,静岡10/28)
- 10/28 桜井静馬写真展於浜松商工会館(-30)。(毎日静
岡西部版10/6,29,中日遠州版10/29)
- 10/29 坂上繁小品展於清水戸田書店(-11/5)。
(朝日静岡版10/29,読売静岡B版11/1)
- 10/31 佐藤蕪堂展於浜松松菱(-11/3)。(浜松民報
10/13,11/16,中日遠州版10/26,朝日駿遠版
10/27)
- 11/ 1 第4回日展於東京都美術館(-12/6)。
青島淑雄《清掃夫たち》小関賢一《山》中村岳陵
《残照》*近藤浩一路《朝露を踏んで》野島青茲
《髪》漆畑廣作《法隆寺赤仁王》遠藤君雄《丘の
家(長崎)》佐伯喜三郎《構内》藤野嘉市《緑の
静物》藤本東一良《帰帆》森正一《波止場》浅井
行雄《裸婦立像》大村政夫《新生》後藤白童《七
面鳥》澤田政廣《魚持女》*館野親光《岬の女》
堤達男《灯》**平野敬吉《女》和田金剛《白夜》二
橋美衡《壁面裝飾彫金打出透池辺》出品。(美術
年鑑S.37*,浜松民報7/26,静岡9/28*,朝日駿豆,駿
遠版10/25,27,28,中日遠州版10/25,27,28毎日静
岡中部版10/28,西部版10/29)
- 11/ 1 藤野嘉市小品展於静岡扇子屋(-15)。(読売静
岡B版11/1,4,静岡11/4,朝日駿遠版11/1)
- 11/ 1 松林トミ夫漫画展於静岡ウイーン(-7)。
(静岡11/2,毎日静岡版11/5)
- 11/ 3 近代美術館の十年展於神奈川県立近代美術館
(-12/24)。北川民次《メキシコの静物》中村岳陵
《砂丘》
- 11/ 4 多々良勝博展於県民会館(-11)。(静岡10/30,
11/1,読売静岡B版11/7,8)
- 11/ 5 「県展十五年の歩み」(静岡11/5)
- 11/ 6 山口源版画展於東京養清堂画廊(-11)。
- 11/ 6 佐野玄融展於清水戸田書店(-12)。
(朝日駿遠版11/2,読売静岡B版11/5,7)
- 11/ 7 増田大罇個展於静岡扇子屋(-12)。(静岡11/4,11,
朝日駿遠版11/7,読売静岡B版11/7)
- 11/ 7 平川勇展於浜松松菱(-12)。(中日遠州版11/8,
朝日駿遠版11/10,浜松民報11/14)
- 11/ 8 郷土先賢遺墨展於清水市立図書館(-9)。
(読売静岡B版11/7,静岡11/9)
- 11/10 柏木俊一色紙展於三島ララ洋菓子店(-20)。(三

- 島民報11/10,三島ニュース11/12,静岡11/18)
- 11/10 清水市美術協会発足。11/18 同会だより[ニュース]創刊。(朝日駿遠版9/22)
- 11/11 第1回福島繁太郎賞。(熱海3/21,伊豆毎日4/2)
- 11/11 三行舎第12回展於浜松市立図書館(-13)。(浜松民報10/20,11/10,11)
- 11/13 長尾忠之色紙展於清水戸田書店(-19)。(静岡11/11,朝日駿遠版11/11,読売静岡B版11/12,清美協no.1)
- 11/13 吉野不二太郎近作油絵展於静岡吉見書店(-19)。(朝日駿遠版11/11)
- 11/15 県芸術祭美術部門第1回展於県民会館・田中屋・松坂屋・日米文化センター(-19)。審査員:堀田清治,井上長三郎,山本豊市,加藤栄三,畦地梅太郎,平野利太郎,上田哲農,松井如流。書の部門が加わる。(静岡11/5,14,15,毎日静岡東,中部版9/10,西部版11/15,朝日駿豆,駿遠版9/10,11/12,15,26,読売静岡B版11/12,19,浜松民報11/15,中日遠州版11/16,駿遠版17,19)
- 11/15 現代フランス絵画展:サロン・ド・パリ於静岡松坂屋坂屋(-19)。(静岡10/8,14,16,朝日駿豆,駿遠版11/12,読売静岡B版11/13,15)
- 11/15 日本初期石版画展於浜松市立図書館(-19)。(毎日静岡西部版11/5,18,朝日駿遠版11/12,浜松民報11/6,14,17,中日遠州版11/16)
- 11/15 黄檗寺宝展於浜松郷土博物館(-26)。(浜松民報11/16,12/1,2,中日遠州版11/16)
- 11/16 柴田俊個展於静岡扇子屋(-30)。(静岡11/18,読売静岡B版11/21)
- 11/20 矢部長治・杉山有作品展於静岡谷島屋書店(-26)。(静岡11/18,25,毎日静岡中部版11/19,朝日駿遠版11/21,読売静岡B版11/21)
- 11/20 鈴木健司絵画個展於静岡吉見書店(-26)。(静岡11/18,25,読売静岡B版11/21)
- 11/ 渋川栄志展於富士宮芙蓉堂(-25)。(毎日静岡版11/24)
- 11/23 服部保展於浜松ナカムラ画廊(-28)。(中日遠州版11/23,浜松民報11/24,25)
- 11/27 虹人会日本画展於静岡谷島屋書店(-12/3)。(静岡11/27)
- 11/ 久保田文吉小品展於清水戸田書店(-12/3)。(静岡11/28)
- 11/28 滝沢清水水彩画展於静岡吉見書店(-12/3)。(静岡11/28)
- 12/ 1 小林義司個展於静岡扇子屋(-15)。(静岡11/25,12/2,朝日駿遠版11/25,毎日静岡中部版11/26,読売静岡B版11/30)
- 12/ 八木昌一小品展於県民会館(-20)。(静岡12/2)
- 12/ 3 県文化協会第2回表彰式於県民会館。静流会他。(静岡12/3,沼津朝日11/28)
- 12/ 4 柴田哲男水彩画展於清水戸田書店(-10)。(静岡11/28,12/4,朝日駿遠版11/28,12/5,読売静岡B版12/9)
- 12/ 4 斎藤準児展於静岡谷島屋書店(-6)。(静岡12/2,朝日駿遠版12/2)
- 12/ 4 日下泰輔展於静岡吉見書店(-10)。(朝日駿遠版12/2)
- 12/ 5 第5回安井賞候補新人展於東京国立近代美術館(-24)。中村宏《場所の兆し》《他の場所》中村博《群(結集)》《群(離散)》出品。
- 12/ 5 三吉達個展於静岡ウイーン(-10)。(朝日駿遠版12/5)
- 12/10 大谷久子展於浜松ナカムラ画廊(-16)。(浜松民報12/9,12,毎日静岡西部版12/13,朝日駿遠版12/14)
- 12/12 新槐樹社静岡支部第3回展於静岡吉見書店(-17)。(朝日駿遠版12/9,静岡12/12,16,毎日静岡中部版12/13)
- 12/13 吉野不二太郎近作展於静岡吉見書店(-19)。(静岡12/12)
- 12/14 現代巨匠工芸展於静岡松坂屋(-16)。(毎日静岡中部版12/1)
- 12/16 県版画協会余技展於清水戸田書店(-20)。(静岡12/12,毎日静岡中部版12/13,朝日駿遠版12/17,読売静岡B版12/17)
- 12/18 ナカムラ画廊洋画展於静岡吉見書店(-24)。(朝日駿遠版12/14)
- 12/ 中堅画家油絵小品展於浜松ナカムラ画廊(-28)。

- (毎日静岡西部版12/24,中日遠州版12/24,浜松民報12/25)
- 12/20 堀田清治来浜。12/21伊藤廉来浜。
(浜松民報12/22)
- 12/21 樽松貞雄・鈴木収・斎藤磐展於清水戸田書店(-25)。(朝日駿遠12/17,19,読売静岡B版12/22)
- 12/ 堤達男《なぎさのピーナス》設置於土肥温泉松原公園。(静岡12/24)
- 12/26 柴田俊展於清水戸田書店(-31)。(朝日駿遠版12/17,読売静岡B版12/30)
- 12/26 富田衛司展於浜松松菱(-29)。(浜松民報12/18,27,朝日駿遠版12/22,毎日静岡西部版12/23)
- ・ 和田金剛《寅》(沼津朝日11/17,19,28)
- 1962 昭和37年**
- 1/ 1 新春作品展於静岡扇子屋(-15)。(静岡S36.12/23, S37.1/1,6,朝日静岡版1/5,読売静岡B版1/5)
- 1/ 1 グループ大展於静岡吉見書店(-7)。
(朝日静岡版1/1)
- 1/ 2 富嶽三十六景展於静岡安心堂(-10)。
(静岡S36.12/30,S37.1/1,3,6)
- 1/ 3 馬淵敏彦・鈴木儀平展於浜松松菱(-7)。
(浜松民報1/5)
- 1/ 高木吉正作歴代浜松市長肖像画掲示。
(毎日静岡西部版1/14)
- 1/ 5 第13回秀作美術展於東京日本橋三越(-14)。
北川民次《花と煙突》
- 1/ 5 新春絵画展於静岡産業会館(-7)。(毎日静岡版1/1,読売静岡B版1/6)
- 1/ 佐々木真一個展於清水戸田書店(-14)。(静岡1/9,朝日駿遠版1/9,読売静岡B版1/10,13)
- 1/11 日本アメリカ版画展於県民会館(-16)。
(読売静岡B版1/11,朝日駿豆,駿遠版1/12,静岡1/13,清美協no.3)
- 1/11 日下泰輔個展於県民会館(-15)。(朝日駿豆,駿遠版1/12,静岡1/13,読売静岡B版1/13)
- 1/11 杉の子同人写真展第5回展於掛川平喜(-15)。
(朝日駿遠版1/11,郷土1/14)
- 1/13 小林幹於・望月洋二展於清水戸田書店(-19)。
(朝日静岡版1/10,読売静岡B版1/14)
- 1/15 上田臥牛個展於東京ギャラリー創苑(-21)。
(三彩no.148)
- 1/15 大場厚個展於浜松ナカムラ画廊(-20)。
(浜松民報1/17,19,中日遠州版1/17)
- 1/16 宮脇愛子個展於東京画廊(-27)。(読売1/19)
- 1/16 足立行男・藤田恭弘・大庭祐輔展於浜松松菱(-21)。(朝日駿遠版1/14,浜松民報1/12,18,22)
- 1/17 江崎金彦・田中芳三写真展於静岡田中屋(-22)。
(毎日中部版S36.12/31)
- 1/17 世界陶磁器展於静岡松坂屋(-20)。(読売静岡B版1/16,静岡1/17)
- 1/17 新世紀・一線美術協会作品展於吉原友愛スポーツ(-21)。(毎日静岡中部版1/18)
- 1/20 静岡市美術協会講演会於静岡市中央公民館。
講師:針生一郎。(清美協no3)
- 1/20 山内泉・永井正御展於浜松谷島屋(-25)。(浜松民報1/10,22)
- 1/21 清水市美術協会主催現代美術を語る会於清水中電ショールーム。(朝日駿遠版1/19)
- 1/22 服部玲子・荒木省二・五十嵐二郎三人展於東京中央画廊(-27)。
- 1/23 北川民次版画展於東京美松書房(-27)。
- 1/23 七人展於清水戸田書店(-29)。(静岡1/20,24,毎日静岡中部版1/20,27,読売静岡B版1/23,朝日駿遠版1/27)
- 1/24 伊藤勉個展於静岡市中央公民館(-28)。(静岡1/24,27,2/10,毎日静岡中部版1/24,朝日駿遠版1/24,読売静岡B版1/24)
- 1/26 水野欣三郎《少年の像》除幕式於浜松豊岡小学校。(中日遠州版1/12,静岡版1/27)
- 1/ 後藤白童《七面鳥》《母子像》河津南小へ寄贈。
(朝日駿豆版1/28)
- 2/ 1 あせん会第2回展於静岡扇子屋(-28)。(朝日駿豆,駿遠版1/31,読売静岡B版2/1,静岡2/3,17)
- 2/ 3 県展選抜美術展第1回展於東京都美術館(-9)。
(静岡S36.12/4,S37.2/10,朝日駿豆,駿遠版2/1)
- 2/ 3 日下泰輔展於伊東太田ビル(-10)。

- (毎日静岡中部版2/2)
- 2/ 5 齊藤準児展於静岡吉見書店(-11)。(毎日静岡中部版2/3,朝日駿遠版2/4,読売静岡B版2/7)
- 2/ 6 第1回凱風会展於東京村越画廊(-10)。
秋野不矩出品。
- 2/10 岡田紅陽撮影所開設於富士宮。
(朝日駿豆版S36.10/22)
- 2/12 田中比左良他県内スケッチ(-13)。(静岡2/14)
- 2/19 新象作家7人展於静岡吉見書店(-25)。
(浜松民報2/19,静岡2/22)
- 2/20 鈴木重種展於浜松松菱(-25)。(浜松民報2/3,17,22,毎日静岡西部版2/18)
- 2/22 井上市三郎・熊谷文利・靄島庸二 三人展於東京村松画廊(-28)。(浜松民報2/20,3/9)
- 2/22 清水市美術協会第1回展於清水戸田書店・中電ショールーム(-28)。(毎日静岡中部版,2/8,12,24,朝日駿遠版2/20,読売静岡B版2/22,清美協no.3,4)
- 2/22 光峰会創立展於富士宮塩川洋品店(-27)。
(静岡2/22)
- 2/22 北川民次硝子絵展於名古屋豊田ビル画廊(-28)。
- 2/26 県貿易振興会主催デザイン教室於県工業試験所(-3/30)。講師:イキ・ヌミ。(静岡3/31)
- 2/ SAN元会展於静岡吉見書店(-3/4)。
(朝日駿遠版2/28)
- 3/ 小谷和夫個展於静岡扇子屋(-15)。
(静岡3/3,読売静岡B版3/6)
- 3/ 2 第14回読売アンデパンダン展於東京都美術館(-16)。斎藤司郎出品。
- 3/ 3 堤達男《希望(海の子)》除幕式於熱海網代小学校。(静岡1/31,3/3,読売静岡B版2/3,朝日駿豆,駿遠版3/1)
- 3/ 3 村松秀太郎・山下邦雄・笹本克彦三人展第3回展於県民会館(-7)。(静岡2/24,3/10,毎日静岡中部版2/25,中日静岡版2/25,朝日駿遠版2/27,読売静岡B版3/3)
- 3/ 4 第22回美術文化協会展於東京都美術館(-16)。
猪飼重明《マイジャパン》《化石》《でた!!》《その日まで》中村博《作品A》《作品B》伊藤直介《生活詩(土曜日)》《生活詩(赤)》(静岡3/7)
- 猪飼重明、美術文化賞受賞。(浜松民報3/6)
- 3/ 5 らばん・黄色い仲間・遠州美術・ラ・ジャン・エトセトラ・エスパース連合展於静岡吉見書店(-11)。
(毎日静岡中部版3/6,静岡3/10)
- 3/ 5 北川民次版画展於名古屋豊田ビル画廊(-10)。
- 3/ 6 和田金剛欧米旅行(-6/6)。(沼津毎日2/24,沼津朝日2/25)
- 3/ 杉本宗一《松永いし胸像》除幕式於焼津高校。
(静岡3/8,中日静岡版3/8)
- 3/ 9 堤達男《森一胸像》除幕式於下田。(静岡S36.7/12,S37.3/11,朝日駿豆版3/11,毎日静岡中部版3/13,読売静岡B版3/16)
- 3/11 伊藤英治展於東京村松画廊(-15)。
(浜松民報3/6,12)
- 3/11 井上市三郎展於東京村松画廊(-15)。
(浜松民報3/9,12)
- 3/13 中村達一展於浜松松菱(-18)。(浜松民報3/13,16朝日駿遠版3/15,毎日静岡西部版3/16,)
- 3/ 伏見重雄小品展於静岡扇子屋(-31)。(静岡3/17)
- 3/ 北斎版画展於静岡富士銀行静岡支店(-31)。
(朝日駿遠版3/17)
- 3/16 前田守一・中荃幸治展於三島市図書館(-23)。
(静岡3/16)
- 3/19 安田竹醉展於島田市図書館(-20),於磐田労基会館(22-23)。(中日駿遠版3/14,23)
- 3/20 北川民次陶画展於東京不忍画廊(-25)。
- 3/20 現代洋画大家小品展於静岡吉見書店(-25)。
(中日静岡版3/21,毎日静岡中部版3/22,静岡3/23)
- 3/20 杉山良雄展於静岡中央公民館(-25)。(朝日駿遠版3/18,21,読売静岡B版3/21,24)
- 3/25 田中比左良、天竜スケッチ。(中日遠州版3/29)
- 3/26 山口文雄個展於静岡吉見書店(-4/1)。
(静岡3/24,31)
- 3/27 堤達男《恩田鉄也胸像》除幕式於興津園芸試験場。(毎日静岡中部版3/14,中日静岡版3/20,25*,読売静岡B版3/30)
- 3/28 伊藤廉・曾宮一念展於浜松ナカムラ画廊(-4/3)。
(浜松民報3/27,29,静岡3/27)
- 4/ 1 「県写真サロン」(毎日静岡版4/1)

- 4/ 1 第30回日本版画協会展於東京都美術館(-18)。
山口源《作品A》出品。
- 4/ 1 第12回モダンアート展於東京都美術館(-19)。
新入選者。(静岡4/3)
- 4/ 1 第21回創元会展於東京都美術館(-19)。
新入選者。(静岡4/3)
- 4/ 1 中部旺玄会第1回展於県民会館(-5)。
- 4/ 丹羽勝次 山の絵展於静岡扇子屋(-15)。(毎日
静岡版4/1,読売静岡B版4/3,5,7,朝日駿遠版4/4,
中日静岡版4/5,静岡4/7)
- 4/ 三交会展於静岡吉見書店(-8)。(静岡4/7)
- 4/ 3 第48回光風会展於東京都美術館(-19)。
入選者。(静岡3/29,毎日静岡中部版3/29)
- 4/ 7 チャーチル会沼津発会式於沼津竜宮城。宮田重
雄、伊原宇三郎来沼。(沼津朝日4/7)
- 4/ 9 小栗哲郎個展於静岡吉見書店(-15)。
- 4/10 第4回国際具象派美術展於東京銀座松坂屋
(-22)。北川民次《花》《トランスと煙突》
- 4/12 松島達太郎展於浜松松菱(-15)。(浜松民報
3/31,4/12,13,朝日駿遠版4/12,毎日静岡西部版
4/12,中日遠州版4/12)
- 4/12 榎倉省吾展於浜松ナカムラ画廊(-17)。(中日遠州
版4/12,毎日静岡西部版4/13,朝日駿遠版4/13)
- 4/13 静流会小品展於沼津静岡新聞沼津支局(-17)。
山口源《UTA》志賀旦山《箱根残雪》(静岡
4/13,14,沼津朝日3/15,4/15)
- 4/15 創型会第6回彫刻展於県民会館(-19)。
(静岡4/14,21,朝日駿遠版4/15)
- 4/15 第10回日彫展於東京都美術館(-5/4)。
浅井行雄《裸婦坐像》澤田政廣《魚》重岡建治《黄
土の大人》飛岡文一《春休に来た娘》《日なたぼっこ》
平野敬吉《春》和田金剛《ヘラクレス》(出品目録)
- 4/16 杉山良雄従軍スケッチ展於静岡吉見書店(-22)。
(静岡4/14,朝日駿遠版4/20)
- 4/16 鈴木福富富士山展於静岡扇子屋(-30)。(静岡
4/18,21,毎日静岡中部版4/19,読売静岡B版4/28)
- 4/18 増田大罇近作展於静岡産業会館(-22)。(静岡
4/16,朝日駿遠版4/17,読売静岡B版4/17,毎日静
岡中部版4/18)
- / 山口源、井上靖著『洪水』装画。(沼津朝日4/19)
- 4/19 新象作家7人展於静岡吉見書店(-25)。
- 4/20 遠州美術会展於浜松松菱(-22)。(朝日駿遠版
4/19,浜松民報3/20,29,4/19,23,中日遠州版
4/20)
- 4/22 第36回国画会展於東京都美術館(-5/8)。
青木達弥《石の花》小栗哲郎《然別湖》《大和
田》波川栄志《湖岸の残雪》《草原の山羊》曾宮
一念《桜島黒神》野田好子《雲と植物》栗山茂
《生物詩》中川雄太郎《伝説「かぐや姫」》山口源
《作品A》芹沢銈介《カーテンA》《カーテンB》出
品。入選者。(中日駿遠版4/24)
- 4/23 第1回双樹会展於東京一哉堂(-27)。野島青茲《蘭》
- 4/23 柴田秀二・柴田俊・柴田哲男・柴田秀夫 家族展
於清水中電ショールーム(-29)。(毎日静岡中部版
4/19,読売静岡B版4/23,朝日駿遠版4/25)
- 4/25 堤達男《竜瑞嘉蔵胸像》除幕式於下田。(静岡
S35.7/16,中日駿遠版4/26)
- 4/ 日下泰輔展於伊東太田ビル(-30)。(毎日静岡中
部版4/25,朝日駿豆版4/27)
- 4/27 近藤浩一路逝去。享年78。(美術年鑑S.38,読売4/28)
- 4/30 静宣美展於静岡吉見書店(-5/5)。(朝日静岡版4/30)
- 4/ 伊藤勉版画展於焼津紫苑(-5/5)。(静岡4/28)
- 4/ 曾宮一念『日曜随筆家』刊行。(静岡5/26)
- 5/ 1 小林義司水彩画展於静岡扇子屋(-15)。(静岡
4/28,5/12,朝日駿遠版5/1,読売静岡B版5/2,4,毎
日静岡中部版5/3)
- 5/ 1 七人展第2回展於清水戸田書店(-7)。(静岡
4/28,読売静岡B版5/2,4,6,毎日静岡中部版5/3)
- 5/ 1 杉山良雄・久保田文吉水彩画二人展於清水久
松(-31)。(静岡5/3,毎日静岡中部版5/3,読売静
岡B版5/4)
- 5/ 1 創元会浜松支部展於浜松松菱(-6)。(浜松民報
4/30,5/2,中日遠州版5/1,毎日静岡西部版5/3)
- 5/ 1 黄檗展於浜松郷土博物館(-20)。
(浜松民報4/6,12,5/10)
- 5/ 斎藤大・青木英夫近作展於伊東太田ビル(-8)。
(毎日静岡中部版5/5)
- 5/ 3 井出栄展於富士宮芙蓉堂(-7)。(静岡5/3,毎日

- 静岡中部版5/3,中日静岡版5/3,朝日駿豆版5/4)
- 5/ 4 「文化施設のお粗末な県都」(朝日駿豆,駿遠版5/4)
- 5/ 4 彩友会展於富士宮市公民館(-6)。(朝日駿豆版5/1)
- 5/ 気賀麗子作品、オーストリア大統領に寄贈される。
(静岡5/5)
- 5/ 7 二重作龍夫滞欧作品展於東京丸善画廊(-12)。
- 5/ 8 山下清ヨーロッパ作品展於静岡松坂屋(-13)。
(朝日駿遠版5/4,9,静岡5/7,8,9,24, 中日静岡版
5/5,読売静岡B版5/8,毎日静岡中部版5/9)
- 5/ 8 佐藤真一展於浜松ナカムラ画廊(-13)。
(浜松民報5/8,9,朝日駿遠版5/10)
- 5/ 9 第5回現代日本美術展於東京都美術館(-22)。
北川民次《花》野田好子《全き空》《魚売りの女》
秋野不矩《椅る女》中島多茂都《丹沢山》山口源
《無想》《放念》澤田政廣《すなどり》出品。沢村美
佐子《作品I》土井俊泰《痕ハ》上田臥牛《裸木
A》村松秀太郎《鳥》。(美術年鑑S.38,静岡4/21)
- 5/ 中村治郎、小山町観光案内図制作。(静岡5/11)
- 5/ 真野広展於伊東太田ビル(-20)。(朝日伊豆版
5/13,毎日静岡中部版5/17)
- 5/14 中川博汀日本画展於清水戸田書店(-21)。(朝日
駿遠版5/13,読売静岡B版5/15,毎日静岡中部版
5/17,18)
- 5/14 てる・やす第2回展於静岡吉見書店(-20)。
- 5/15 大内枝翠南画個展於清水中電ショールーム(-19)。
(静岡5/13,読売静岡B版5/15,毎日静岡中部版5/16)
- 5/15 壮炎会第17回展於浜松松菱(-20)。(朝日駿遠版
5/15,中日遠州版5/15,毎日静岡西部版5/16,浜松
民報5/19)
- 5/16 犬塚友吉個展於東京村松画廊(-20)。
(浜松民報5/12)
- 5/16 沢村美佐子個展於東京竹川画廊(-20)。
- 5/16 藤野嘉市個展於静岡扇子屋(-31)。(読売静岡B
版5/18,静岡5/19,毎日静岡中部版5/19)
- 5/17 一ノ瀬昌堂・吉野不二太郎・山口仁書画三人展
於静岡産業会館(-20)。(読売静岡B版
5/16,17,20)
- 5/18 伊藤圭・川上徹・石川通三 三人陶芸展於静岡安
心堂(-27)。(静岡5/19)
- 5/21 富谷岳洋個展於静岡吉見書店(-27)。(朝日駿遠
版5/16,読売静岡B版5/23,静岡5/26)
- 5/25 静流会第17回展於沼津商工会議所(-27)。(黎明
5/23,沼津朝日5/25,27,沼津毎日5/25)
- 5/25 真野広 伊豆の風景展於下田(-31)。
(静岡5/27,朝日伊豆版5/27)
- 5/26 広野殷生滞欧作品展於沼津市公会堂(-27)。
(沼津毎日5/23,29,沼津朝日5/24,黎明5/25,朝日
伊豆版5/25)
- 6/ 1 栗山茂近作版画展於扇子屋(-15)。(静岡6/9,毎
日静岡中部版6/6,読売静岡版6/10)
- 6/ 吉野不二太郎個展於清水久松(-30)。(読売静
岡B版6/3,9,12,13,静岡6/7,毎日静岡版6/10)
- 6/ 乙未会 青木英夫・神谷道緒・日下泰輔・斎藤大・
斎藤真一・島春湖六人展於伊東太田ビル(-8)。
(毎日静岡中部版6/3,朝日伊豆版6/5)
- 6/ 2 堤達男《杉山彦三郎胸像》除幕式於静岡駿府公
園。(静岡S36.5/29,11/14,S37.6/2,3,朝日駿豆,駿
遠版S36.12/16,S37.3/16,6/2,3,読売静岡B版,
5/19毎日静岡中部版6/3,中日遠州版6/3)
- 6/ 6 日本画大家名作展於浜松商工会館(-10)。
(中日遠州版6/7)
- 6/ 7 宮崎万平近作展於静岡松坂屋(-9)。
- 6/ 8 山下充個展於東京ヤマト画廊(-13)。
- 6/ 8 集団アート展於焼津日本生命ホール(-14)。
(朝日駿遠版6/8)
- 6/ 9 朔日会静岡支部展於富士宮芙蓉堂(-13)。
(朝日駿豆版6/9,静岡6/12)
- 6/11 丹羽勝次個展於静岡吉見書店(-16)。
- 6/11 江尻広海・水島春男・彫刻・ポスター展於県民会
館(-17)。(静岡6/16)
- 6/ 大野晴義展於伊東太田ビル(-20)。
(朝日伊豆版6/19)
- 6/16 山田安個展於静岡扇子屋(-30)。(静岡6/16,毎
日静岡中部版6/21,読売静岡B版6/23,28)
- 6/ 福田敏子・江口忠・良知成恭三人展於静岡吉見
書店(-24)。(静岡6/16,23,読売静岡B版6/23)
- 6/18 中野謙二漆芸展於静岡安心堂(-24)。
(毎日静岡中部版6/21,読売静岡B版6/22)

- 6/19 現代日本画大家近作展於浜松ナカムラ画廊(-24)。
(中日遠州版6/20,浜松民報6/21,毎日静岡西部版6/22)
- 6/20 前衛美術展於東京都美術館(-7/3)。
中村宏《血井》(美術年鑑S.38)
- 6/20 第15回創造展於東京都美術館(-7/3)。
入賞者。(沼津朝日6/22,沼津毎日6/23)
- 6/25 石上白竜個展於清水中電ショールーム(-7/1)。
(静岡6/24,毎日静岡版6/24,読売静岡B版6/26)
- 6/26 井上恒也日本画展於東京三越(-30)。
- 7/ 秋山好文漫画展於伊東長寿庵(-31)。
(朝日伊豆,駿豆版7/1)
- 7/ 柴田俊油絵小品展於静岡扇子屋(-10)。(静岡7/7)
- 7/ 山田安新作個展於清水久松(-31)。(読売静岡B版7/7,静岡7/14)
- 7/ 複製彫刻展於浜松谷島屋書店(-31)。(朝日駿遠版7/13)
- 7/ 2 写実派協会第20回展於静岡吉見書店(-8)。
(朝日駿遠版7/6,読売静岡B版7/7)
- 7/ 真野広展於伊東太田ビル(-9)。(朝日伊豆版7/5)
- 7/ 杉山英雄油彩小品展於沼津アートコーヒー(-10)。
(沼津朝日7/6,朝日駿豆版,伊豆版7/8)
- 7/ 6 二重作龍夫滯欧素描展於東京三越(-10)。
- 7/ 7 中森五三九《希望にもえて》除幕式於静岡駒形小学校。(毎日静岡中部版7/8)
- 7/ 8 蒼野会日本画展於浜松市民会館(-10)。(浜松民報7/7)
- 7/ 8 平川勇展於浜松ナカムラ画廊(-12)。(浜松民報6/26,7/10,12,28,8/4,毎日静岡西部版7/10)
- 7/11 水野以文水彩画展於東京三越(-15)
- 7/11 遠州美術協会第2回小品展於浜松松菱(-15)。
(浜松民報4/10,5/14,7/10,13,静岡7/10)
- 7/ 坂本保展於伊東太田ビル(-18)。(朝日伊豆版7/14)
- 7/16 コアデザイン展於静岡吉見書店(-22)。(静岡7/16,朝日駿遠版7/20)
- 7/ 青島淑雄《富士山》島田市よりリッチモンド市へ寄贈される。(朝日駿豆版7/18)
- 7/17 伊東深水画塾展於浜松商工会館(-22)。(浜松民報7/18,19,中日遠州版7/19)
- 7/ 八木清次小品展於静岡扇子屋(-30)。(静岡7/21)
- 7/21 水野欣三郎《希望の灯》除幕式於浜松西遠女子学園。(朝日駿遠版5/13,静岡7/22,中日遠州版S36.5/20)
- 7/24 市野三接・大庭祐輔展於浜松松菱(-29)。
(浜松民報7/21,25,静岡7/24)
- 7/27 森良平・斎藤真一・日下泰輔・井原敏夫・太田嘉吉・高野良之助 マロニエ会六人展於伊東丸共ストア(-30)。(朝日伊豆,駿豆版7/19)
- 7/31 光洋会日本画第3回展於浜松松菱(-8/5)。(浜松民報7/27,8/1,中日遠州版7/29,31,朝日駿遠版7/31)
- 7/ 北川民次『うさぎの耳はなぜながい』刊行。
- 8/ 1 平井俊男スケッチ展於清水久松(-31)。(静岡8/1, 読売静岡B版8/2,5,毎日静岡中部版8/4,朝日駿遠版8/14)
- 8/ 1 一ノ瀬芳郎グループスタイル展於静岡扇子屋(-15)。(静岡8/4,朝日駿遠版8/8)
- 8/ 1 行動美術中堅会員展於浜松ナカムラ画廊(-6)。
(浜松民報8/1,3)
- 8/ 3 田中比左良スケッチ展於島田知新(-7)。
(中日静岡版8/3)
- 8/ 7 かつば祭第5回於静岡日興会館(-13)。
(静岡7/21,8/6,7,8,朝日駿遠版8/7)
- 8/ 9 県写真サロン第7回展・国際写真サロン第22回展於静岡田中屋(-13)。(朝日駿豆,駿遠版3/6,4/1,5/22,6/1,8,9,伊豆版,駿豆版,駿遠版8/8,9,10,11,14,15)
- 8/11 望月清色紙展於清水中電ショールーム(-17)。
(読売静岡B版8/11)
- 8/ 小谷和夫作品展於静岡扇子屋(-20)。(静岡8/11,読売静岡B版8/12)
- 8/13 静流会色紙展於沼津アートコーヒー(-17)。
(沼津朝日8/11,静岡8/13)
- 8/14 池田幸太郎・伊藤孝之展於県民会館(-19)。(静岡8/14,朝日駿遠版8/14)
- 8/15 現代名家デッサン展於浜松商工会館(-19)。(浜松民報8/14,朝日駿遠版8/15,18)
- 8/18 横山朱実展於浜松ナカムラ画廊(-23)。
(浜松民報8/18,21)

- 8/20 前田守一版画展於東京養清堂画廊(-25)。
- 8/20 内田公雄・相沢常樹・冬木徹三人展於沼津静岡新聞沼津支局(-24)。(沼津朝日8/19,22,朝日伊豆,駿豆版8/19,静岡8/21)
- 8/21 鈴与美術展於清水戸田書店(-)。(朝日駿遠版8/21)
- 8/ 太田京子・太田恭一 二人展於静岡吉見書店(-26)。(朝日駿遠版8/22)
- 8/ 山本正幸個展於静岡扇子屋(-31)。(静岡8/25,読売静岡B版8/25)
- 8/28 柳田華紅逝去。(清美協no.7)
- 8/28 浜松形象派展於浜松松菱(-9/2)。(朝日駿遠版8/28,浜松民報8/28,30)
- 8/ 羊雲会第9回展於静岡吉見書店(-9/2)。(朝日駿遠版8/29,静岡9/1)
- 8/ 有木弘展於島田知新(-9/4)。(毎日静岡中部版9/2)
- 8/29 剣聖宮本武蔵展於静岡松坂屋(-9/5)。(静岡8/23,29,9/1,朝日駿遠版8/31,駿豆,伊豆,駿遠版9/2)
- 8/30 和田金剛《愛と智と平和》設置於沼津市立駿河図書館。(沼津朝日8/25,31,沼津毎日8/31,黎明8/31,毎日静岡中部版9/1)
- 8/30 静岡県水彩画協会第12回展於県民会館(-9/2)。(静岡8/29,浜松民報9/1)
- 8/ 北川民次『北川民次のモザイク』刊行。
- 9/ 1 第47回二科展於東京都美術館(-20)。
北川民次《画家と家族》(朝日9/10,静岡9/15)
- 9/ 1 第47回院展於東京都美術館(-20)。
中島多茂都《瀟》。入選者。(静岡8/30, 中日静岡版8/30,毎日静岡中部版8/31,朝日駿豆,伊豆,駿遠版8/31)
- 9/ 1 前田守一個展於静岡扇子屋(-31)。(静岡9/1)
- 9/ 1 現代洋画大家淡彩素描展於浜松ナカムラ画廊(-6)。(浜松民報8/31,中日遠州版9/1,朝日駿遠版9/2)
- 9/ 増田大罌展於清水久松(-30)。(静岡9/8,読売静岡B版9/9)
- 9/ 鈴木修・青木鉄夫・中村秀夫三人展於静岡吉見書店(-9)。(朝日駿遠版9/6,静岡9/8)
- 9/ 沼津市役所窓口コーナーに作品展示。志賀旦山の作品(沼津朝日9/4,沼津毎日9/4,読売静岡B版9/13)相沢常樹《漁船》(沼津朝日10/6)成瀬憲
- 《砂丘》(沼津朝日11/7)小堀稜威雄《静物》(沼津朝日12/16)内田公雄《ガラス工場》(沼津朝日S38.11/6)下田舜堂《溪》(沼津朝日S38.12/4)
- 9/ 5 毎日写真展第8回於静岡田中屋(-12)。(毎日静岡中部,西部版7/6,9/5,6,7,8,10,11,12)
- 9/ 7 県美術家協会第4回展於県民会館(-12)。
- 9/ 8 朝倉響子《汗影》除幕式於小山町須走小学校。(静岡9/8,9,毎日静岡中部版9/8,中日静岡版9/8,朝日伊豆,駿豆版9/8)
- 9/ 8 静宣美第5回展於静岡産業会館(-22)。(朝日駿豆,伊豆,駿遠版8/1,9,13)
- 9/ 9 斎藤磐展於清水戸田書店(-15)。(中日静岡版9/9,朝日駿遠版9/13)
- 9/ 柴田秀二色紙展於清水中電ショールーム(-16)。(朝日駿遠版9/13,読売静岡B版9/13)
- 9/11 土味川独甫展於東京兜屋画廊(-16)。(朝日9/10,浜松民報9/11)
- 9/13 安心堂主催現代日本画人気作家新作展於浜松商工会館(-17)。(浜松民報9/14,15,25)
- 9/14 「北川民次(人と風土;6)」(中日9/14)
- 9/16 望月康男・斎藤磐展於静岡扇子屋(-30)。(中日静岡版9/14,静岡9/22,朝日駿遠版9/22,読売静岡B版9/22,25,29)
- 9/16 谷口六郎展於清水戸田書店(-22)。(毎日静岡中部版9/16)
- 9/18 村松静男[花溪]個展於清水中電ショールーム(-23)。(朝日駿遠版9/19,中日静岡版9/20,静岡9/21)
- 9/19 堤達男《友情》除幕式於沼津第五中学校。(朝日伊豆,駿豆版9/19,黎明9/29,静岡9/20,毎日静岡中部版9/20,沼津朝日9/20)
- 9/20 現代日本画大家近作展於浜松ナカムラ画廊(-25)。(浜松民報9/20,毎日静岡西部版9/23)
- 9/21 杉林会展於浜松松菱(-23)。(浜松民報9/20,22)
- 9/22 第26回新制作展於東京都美術館(-10/10)。
入選者。(毎日静岡西部版9/21)
- 9/22 第24回一水会展於東京都美術館(-10/10)。
入選者。(中日静岡版9/20)
- 9/22 第8回一陽会展於東京都美術館(-10/10)。
月見里シゲル《××族》《××傑》《××脅》(中日静岡

- 版9/20,27,読売静岡B版10/3)
- 9/22 後藤一夫・山内泉展於浜松谷島屋書店(-26)。
(朝日駿遠版9/21,毎日静岡西部版9/23,浜松民報9/18,24)
- 9/ 柏木俊一色紙展於伊東太田ビル(-30)。
(朝日伊豆版9/27)
- 10/ 1 青野裕彦・太田清・鈴木稔男展於清水中電ショールーム(-7)。(朝日駿遠版9/30,読売静岡B版10/2,毎日静岡中部版10/3)
- 10/ 1 七丈南豊個展於静岡吉見書店(-7)。(静岡9/29,10/6,朝日駿遠版9/30,10/5,毎日静岡中部版10/3)
- 10/ 1 仲安銀蔵個展於静岡扇子屋(-10)。
(朝日駿遠版10/3,静岡10/6)
- 10/ 4 浜松市美術協会第2回展於浜松市民会館(-7)。
(浜松民報5/14,9/14,10/4,5)
- 10/ 5 早川実・木梨素彦展於清水久松(-15)。(静岡10/6,朝日駿遠版10/6,毎日静岡中部版10/7,読売静岡B版10/9)
- 10/ 6 第3回東京国際版画ビエンナーレ展於東京国立近代美術館(-11/11)。
北川民次《アザミの花》《裸婦》出品。
- 10/ 8 静岡県版画協会第27回展於静岡吉見書店(-14)。
(浜松民報10/4,静岡10/6,13)
- 10/ 9 六灯会第6回展於浜松松菱(-14)。(浜松民報10/8,10,毎日静岡西部版10/9,中日遠州版10/10)
- 10/10 高島茂雄第4回個展於県民会館(-13)。
(静岡10/6,朝日駿遠版10/10)
- 10/ 杉山良雄展於清水戸田書店(-19)。
(毎日静岡中部版10/17)
- 10/ 小林義司小品展於静岡扇子屋(-25)。
(静岡10/13,朝日駿遠版10/16)
- 10/12 第16回二紀会展於東京都美術館(-30)。
水野欣三郎《後世の発掘》
- 10/12 第26回自由美術展於東京都美術館(-30)。
初入選者。(静岡10/11,浜松民報10/12)
- 10/13 後藤白童《力石像》除幕式於河津神社。
(読売静岡B版10/12)
- 10/ 開拓第2回展於静岡吉見書店(-21)。(柴田隆二,大井秀夫,高木俱,木梨素彦,岡本和枝他)。(静岡10/17,20,中日静岡版10/17,読売静岡B版10/18)
- 10/ 茜会第2回展於静岡扇子屋(-31)。(朝日駿遠版10/16,静岡10/20,朝日駿遠版10/25)
- 10/15 杉山良雄展於清水戸田書店(-19)。
(朝日駿遠版10/13)
- 10/17 野島青茲新作展於東京兼素洞(-20)。(三彩no.156)
- 10/19 《岩間甲斐之助胸像》除幕式於熱海伊豆山。
(朝日駿豆,伊豆版10/23)
- 10/19 朝倉文夫《岡野喜太郎胸像》除幕式於沼津市立駿河図書館。(朝日駿豆版10/21)
- 10/19 武石弘三郎《一言弥太郎胸像》除幕式於藤枝。
(静岡10/3,中日静岡版10/6,朝日駿遠版10/21,読売静岡B版10/21)
- 10/20 大井秀夫「県美術祭への疑問:参加できない墨象」(静岡10/20)
- 10/20 保坂昌男・杉山久男二人展於静岡金清軒(-11/5)。(静岡10/23)
- 10/23 新槐樹社静岡支部第4回展於静岡吉見書店(-28)。(静岡10/21,27,読売静岡B版10/23,朝日駿遠版10/26)
- 10/23 清水秀耕肖像画展於浜松松菱(-28)。
(静岡10/29,浜松民報10/15,24)
- 10/25 青美会・池之坊合同展於熱海市観光会館(-28)。
(朝日伊豆版10/13,30)
- 10/25 沼津市立駿河図書館開館。(朝日伊豆,駿豆版8/29,沼津朝日10/20,23,沼津毎日10/26,静岡10/26)
- 10/25 園美展第1回展於浜松園(-11/10)。(浜松民報10/26,毎日静岡西部版10/28)
- 10/26 清川泰次個展於東京銀座松坂屋(-11/1)。
- 10/27 和田実展於富士富士見高校(-28)。
(朝日駿豆版10/28)
- 10/30 柴田哲男展於清水中電ショールーム(-11/4)。
(読売静岡B版10/30,中日静岡版10/30,毎日静岡中部版11/3)
- 10/30 一土会第3回展於静岡吉見書店(-11/4)。
(朝日駿遠版10/31)
- 10/30 林鶴雄展於浜松松菱(-11/4)。
(浜松民報10/31,11/2)
- 11/ 1 第5回日展於東京都美術館(-12/6)。

- 青島淑雄《舗装》野島青茲《麗衣》藤本東一良《ヨットハーバー》村松茂男《灯台へ行く道》森正一《石炭岸壁》澤田政廣《炎神を生むイザナミ命》杉本宗一《羅漢》館野親光《誇》堤達男《和風》平野敬吉《斜光》三橋良朗《静響》山家初枝《こぶし》和田金剛《炎花》二橋美衡《彫金花蝶文壁面装飾》入選者。(毎日静岡中部, 西版10/25,27,28,中部版10/26,中日静岡,遠州版10/26,静岡10/27)
- 11/ 1 河原宏・蒲原肇二人展於清水久松(-30)。(静岡11/10)
- 11/ 1 広重東海道五十三次展於静岡安心堂(-10)。(中日静岡版11/1,2,静岡11/2,7,9,読売静岡B版11/6)
- 11/ 1 椎木素行フォトグラマー展於浜松谷島屋書店(-11)。(浜松民報11/5)
- 11/ 吉野不二太郎展於静岡扇子屋(-15)。(静岡11/3,朝日駿遠版11/6,読売静岡B版11/8)
- 11/ 2 永松光子個展於吉原友愛商会(-6)。(朝日伊豆版11/3)
- 11/ 3 中村岳陵、文化勲章受賞。(静岡11/21)
- 11/ 6 岡倉天心展於静岡松坂屋(-11)。(毎日静岡中部版11/1,静岡11/1,6,朝日駿豆,静岡版11/6,9,伊豆,駿遠版11/3,6)
- 11/ 7 ナカムラ画廊主催現代洋画大家小品展於静岡吉見書店(-11)。(浜松民報11/8)
- 11/ 安心堂主催新制作派展於浜松商工会館(-11)。(朝日駿遠版11/9)
- 11/10 山口益個展於沼津山口益アトリエ(-18)。(沼津朝日11/13)
- 11/10 文化講演会於県婦人会館。講師:桂ユキ子他。(静岡11/10)
- 11/ 北春会展於伊東太田ビル(-16)。(毎日静岡中部版11/11)
- 11/12 神谷広見展於浜松園(-15)。(浜松民報11/14,15)
- 11/14 中村良七郎逝去。(浜松民報11/14,15,16,17,21,毎日静岡西部版11/15)
- 11/14 県芸術祭第2回展於県民会館・静岡松坂屋・田中屋・吉見書店(-18)。審査員:杉全直,高橋忠弥,近藤武松,山田申吾,北岡文雄,高橋節郎,春日部たすく,金子鷗亭。(毎日静岡中部版7/15,11/14,静岡7/25,11/7,12,14,18, 浜松民報8/16,12/7,朝日駿豆,伊豆,駿遠版9/15,11/14,15,19,中日静岡版11/11,14,遠州版11/14,12,7,読売静岡B版11/14,18)
- 11/14 山脇正邦《宮崎通之助胸像》除幕式於静岡駿府公園。(読売静岡B版11/3,14,静岡S39.9/18)
- 11/14 江崎金彦写真展於静岡松坂屋(-18)。(静岡11/12)
- 11/15 清川泰次個展於東京駿河台画廊(-30)。(浜松民報11/16)
- 11/15 柳田華紅遺作展於清水中電ショールーム(-19)。(朝日駿遠版11/14,中日静岡版11/15,静岡11/17,読売静岡B版11/17,清美協no.7)
- 11/15 三行舎第13回展於浜松商工会館(-18)。(浜松民報11/8,16,中日遠州版11/14)
- 11/ 杉山幸子・水上安子染色二人展於静岡扇子屋(-30)。(静岡11/17)
- 11/17 日本版画協会第30回記念版画展於静岡市産業会館(-19)。(毎日静岡中部版11/1,朝日駿遠版11/8)
- 11/ 柏木俊一展於伊東太田ビル(-24)。(朝日伊豆版11/21)
- 11/20 美術家連盟西伊豆旅行。(中日12/4)
- 11/20 堤達男《キーノート肖像》除幕式於県畜産試験場。(静岡10/23,11/21,中日静岡版10/25,読売静岡B版11/21,朝日駿豆版12/1)
- 11/20 野島青茲展於細江中央公民館(-21)。(静岡11/15)
- 11/21 佐野和夫俳画展於清水中電ショールーム(-25)。(朝日駿遠版11/21,毎日静岡中部版,11/22,中日静岡版11/23,読売静岡B版11/24,静岡11/24)
- 11/22 長嶋泰典個展於吉原友愛商会(-25)。(静岡11/21)
- 11/23 二橋美衡《恩愛の像》除幕式於静岡児童会館。(静岡10/31,11/24,朝日駿遠版11/25)
- 11/ 和田金剛彫壁取付於沼津精華高校。(沼津朝日11/28)
- 11/ 藤原和夫油絵小品展於静岡金清軒(-12/10)。(朝日駿遠版11/27,読売静岡B版11/29)
- 12/ 1 県水彩画協会、県文化賞受賞。(朝日駿遠版12/2)
- 12/ 1 中村岳陵、名誉下田町民となる。(朝日駿豆,駿遠

- 版11/25,12/2)
- 12/ 1 木梨素彦展於清水久松(-15)。(読売静岡B版12/1,中日静岡版12/1,朝日駿遠版12/4)
- 12/ 1 小池油絵個展於清水戸田書店(-7)。(中日静岡版12/1)
- 12/ 松山伊久個展於静岡扇子屋(-15)。(朝日駿遠版12/7,静岡12/8)
- 12/ 4 創銅社第1回展於静岡吉見書店(-9)。(朝日駿遠版11/30,静岡12/1,8,読売静岡B版12/4)
- 12/ 4 青野裕彦小品展於清水中電ショールーム(-7)。(中日静岡版12/1,静岡12/3,朝日駿遠版12/4)
- 12/ 4 島田の知新画廊閉鎖。(静岡12/6)
- 12/ 5 高野良之助・井原敏夫展於伊東伊豆画廊(-9)。(朝日伊豆版12/8)
- 12/ 伊東太田ビル増田画廊、伊豆画廊と改称。(朝日伊豆版12/5)
- 12/ 7 新制作派会員展於浜松商工会館(-11)。(浜松民報12/8,12)
- 12/ 7 静篁会展於浜松谷鳥屋書店(-12)。(浜松民報12/5,8)
- 12/11 斎藤眞一展於伊東伊豆画廊(-17)。(朝日伊豆版12/11)
- 12/12 山口益《希望》除幕式於箱根見晴学園。(沼津朝日12/5,静岡12/10,毎日静岡中部版12/12,朝日駿豆,伊豆版12/12,三島ニュースS38.1/1)
- 12/12 久能山東照宮総合調査(-14)。(静岡12/11,13,15,S38.1/14,中日静岡版12/11,毎日静岡中部版12/13,15,読売静岡B版12/13,朝日駿遠版12/15)
- 12/12 洋画大家近作展於浜松ナカムラ画廊(-17)。(浜松民報12/13)
- 12/14 第6回安井賞候補新人展於東京国立近代美術館(-26)。月見里茂《○○族2》出品。(清美協no.8)
- 12/ 久保田文吉スケッチ展於清水久松(-31)。(読売静岡B版12/20,朝日駿遠版12/20)
- 12/17 虹人会日本画第4回展於静岡吉見書店(-23)。(朝日駿遠版12/15,静岡12/20)
- 12/20 安田竹醉展於浜松松菱(-24)。(浜松民報12/20,中日遠州版12/20,21,24)
- 12/ 飯田昭二小品展於静岡扇子屋(-31)。(静岡12/24)
- 12/22 北川民次個展於名古屋豊田ビル画廊(-26)。
- 12/ 植田実《安全像》於国鉄浜松工場。(中日遠州版12/17,朝日駿遠版12/23)
- 12/ 遠州美術会、『遠美』刊行。(朝日駿遠版12/25)
- 12/25 洋画人気作家淡彩展於浜松ナカムラ画廊(-31)。(浜松民報12/25,26)
- 12/ 戸塚晃彦展於清水戸田書店(-30)。(静岡12/26,朝日駿豆,駿遠版12/27,読売静岡B版12/27,28)
- 12/ 江尻広海《いわお》県民会館に寄贈される。(静岡S38.1/6)
- 12/28 現代洋画大家複製画展於静岡吉見書店(-S38.1/6)。(朝日駿遠版12/28,読売静岡B版12/29,S38.1/6)



平成29年度 静岡県博物館協会地域セミナー事例報告

夏休み子どもワークショップ

一休さんも吹いた笛「小さな尺八“一節切”を作って演奏しよう!

浜松市楽器博物館 嶋 和彦

日時 平成29年8月26日(土)13:30~16:00
 会場 アクトシティ浜松研修交流センター
 講師 相良保之(一節切研究者、古典尺八研究・演奏者)
 補助講師 加藤いつみ(一節切研究者)
 参加者 小学3~6年生 15人
 小3:4人 小4:3人 小5:5人 小6:3人



浜松市 楽器博物館 夏休み子どもワークショップ

一休さんも吹いた笛
 小さな尺八 “一節切” を作って演奏しよう!

一節切(ひとよぎり)は30センチくらいの小さな尺八。600年くらい前の室町時代に中国から伝わりました。竹の節がひとつだけあるので一節切といわれます。戦国武将の浦田信長や、とんちで有名な一休さんも大好きで吹いた笛です。江戸時代には町の人々にも人気の笛になりました。井伊直虎ゆかりのお寺、浜松市の龍澤寺には江戸時代の素晴らしい屏風が保存されていますが、そこには、一節切を吹く人々も描かれているんですよ!この笛を作って演奏にチャレンジしてみましよう!

みなさんは、これまでに近くで尺八(しゃくはち)という楽器をみたり、きいたり、またさわったりしたことがありますか。尺八は、1000年以上も前の昔から日本で吹かれてきた、伝統的な管楽器のひとつです。このワークショップでは、600年くらい前に「とんち」で有名な一休さんが吹いていた一節切(ひとよぎり)という尺八を、みなさんと一緒に作って吹いてみようと思います。

尺八は音を出すのがとても難しい楽器です。大人でもそう簡単には音を出せません。でも少し練習すると、大人よりも子どものほうが上手に良い音を出すことができます。そのコツは、力を入れないで、そっと優しく吹くことです。

さあ!みんなで、一節切に挑戦してみましよう!

相良保之

相良保之(ひょうりょう たけゆき) 尺八研究家・演奏家。東京都出身。300名超の尺八演奏会「和楽」の一節切演奏者。2009年「日本の管楽器」コンテストで、尺八演奏部門で第1位(尺八)と第2位(尺八)を受賞。2012年「尺八の歴史」展で、尺八の歴史をテーマにした尺八演奏会を開催。2015年「尺八の歴史」展で、尺八の歴史をテーマにした尺八演奏会を開催。2015年「尺八の歴史」展で、尺八の歴史をテーマにした尺八演奏会を開催。

日時: 2017. 8. 26 (土) 午後13:30~4:00
 会場: アクトシティ浜松 研修交流センター
 講師: 相良保之(一節切研究者)
 対象: 小学校3~6年生 15人 (先着順)
 参加費: 500円

申込み 6月26日(月)9:30より電話で楽器博物館へどうぞ(先着順)
 TEL: 053-451-1128 〒410-1799 静岡県浜松市中区中塚3丁目9番1号
 URL: http://www.suzukihoaku.jp



募集ポスター・ちらし(上) 先生と記念写真(下)

はじめに

平成7年4月に開館した日本初の公立楽器博物館である浜松市楽器博物館は、世界のすべての地域や民族の楽器に対して、等距離に対応する姿勢を取っている。何億円もするパイプオルガンやヴァイオリンも、何千万円もするピアノも、また、たった何百円で手に入る竹の笛も、楽器という文化としては同じ価値を持つという考えのもと、「世界の楽器と音楽を偏りなく平等に扱う」というコンセプトを貫いてきた。すなわち民族音楽学、文化人類学的アプローチで、展覧会やレクチャーコンサート、講座やワークショップなど、活動はすべてこのコンセプトに則って行われている。長年にわたるその地道な活動が認められ、平成26年(2014年)度には、世界の民族音楽学の優れた研究や活動に対して贈られる「小泉文夫音楽賞」を受賞した。

明治以来の日本における西洋音楽の受容と普及は、世界的に見ても大規模、高レベルで進んできたことは疑いない。その結果西洋音楽演奏における日本人演奏者のレベルや、一般市民の西洋音楽への親しみは世界的レベルにある。しかしその一方で、従来の日本の伝統音楽とそれに関する文化が忘れられ軽んじられてきたことは、社会全体としては確かである。自国の音楽文化を忘れ西洋音楽のみを偏重し楽しむことから生じた問題は、日本の由々しき問題である。

その問題のひとつに、「忘れられた楽器」がある。コトで言えば、13弦の「箏(そう)のみが隆盛し、「一絃琴(いちげんきん)や「二絃琴(にげんきん)という少数絃のコトが忘れられてきた。今や国際的楽器となった尺八も、江戸時代からの尺八である「地無し尺八」がほとんど使われなくなった。大音量、音程の正確さ、西洋楽器との合奏等における優位性や、精神修養という目的の希薄化などがその要因である。尺八のひとつである「一節切(ひとよぎり)もまたそうであった。

本ワークショップは、近年、研究と製作、演奏が復活した一節切の製作と演奏体験を通して、その忘れられた日本の楽器を現代に取り戻そうという試みである。

一節切とは

一節切は長さ30センチ、直径2.5センチほどの、真竹製の小さな尺八である。古くは一節切尺八、あるいは尺八と呼ぶ。管の中ほどより少し上部(歌口側)に、竹の節がひとつだけあるので一節切という。戦国武将の織田信長や武田信玄、有名な一休宗純和尚も愛好した。江戸時代には一般庶民にも普及した。井伊家菩提寺である浜松市の龍潭寺には、江戸時代17世紀後期の素晴らしい屏風「遊楽之図」が保存されているが、そこには、一節切を吹く人々が描かれている。



一節切(表)



一節切(裏)



屏風「遊楽之図」 龍潭寺蔵 浜松市北区引佐町
写真提供:龍潭寺



一節切を吹く人々 屏風「遊楽之図」部分

歴史

一節切のルーツについては詳細はわからない。飛鳥・奈良時代に大陸から箏、笙、竜笛、尺八、琵琶、箏(そう)、琴(きん)、鞆鼓、太鼓など多くの楽器が日本に伝来し、雅楽で使われていた。ただしこの尺八は、現在の尺八

につながるものではない。細身、全面5孔、裏面1孔、管体に節が3つ、という構造で、我々は古代尺八、あるいは雅楽尺八と呼んで、現代尺八と区別している。正倉院には、その目録や実物が残っている。

古代尺八は、平安時代後期になると、雅楽の楽器としては使用されなくなった。では楽器や楽器製作者はどうなったのか? この疑問に、古代尺八は一節切となって庶民に使われるようになったのではないか、という説があり、現在は、これが最も有力な説とされている。一節切の元になる楽器が大陸から入ってきたのではないかという推測も成り立つが、これも確たる証拠がない。従って一節切は、その誕生については謎である。

尺八に関する記述が初見されるのは鎌倉時代の楽書「教訓妙」(1233年)で、「短笛ハ尺八ト云」とあり、これが一節切でないかと推測されている。室町時代になると文献や資料は増えるが、名称はやはり尺八である。一節切尺八と呼ばれるようになったのは、現代尺八のルーツである普化尺八が現れる江戸時代になってからである。

室町時代には、先述した一休宗純をはじめ、静岡県丸子の連歌師柴家軒宗長、戦国時代には武田信玄、織田信長、豊臣家、徳川家等が漆塗り蒔絵の一節切を所有していた。それらのいくつかは今も残っている。織田信長に仕えた大森宗勲は一節切の研究と楽譜や研究書を残し、製作と演奏の名手でもあった。江戸時代には庶民にも広まったが、元禄時代を過ぎると衰退し、普化尺八にその座を譲る。

調子

一節切の調子だが、大森宗勲の楽譜によると季節によって異なる調の楽器を使うように指示されている。日本の雅楽の調子の基本は、壱超調、平調、双調、黄鐘調、盤渉調、太食調の六調子である。ここから、春は双調、夏は黄鐘調、秋は平調、冬は盤渉調、土用は壱超調という「時の調子」の一節切を使う。管調の長いもの、つまり調子の低い順に、平調、双調、黄鐘調、盤渉調、壱超調となる。しかし江戸時代中頃からは黄鐘調のみになっていく。時間や季節という「時」によって演奏に使う調子や旋法が定められているのは、インド音楽におけるラーガが代表例であるが、一節切もそれに類する決まりを持っていたというのは、日本人の季節感の繊細さを示すものとして大変興味深い。

講師略歴

相良保之(さがらやすゆき)：古典尺八研究・演奏家。明暗真法流尺八演奏家。千葉県柏市在住。2005年、NHK特集番組「雪舟」で一節切を演奏。2006年「日本の音フェスティバルIN長野」で小学生を対象に一節切の作り方を指導。2012年「国際尺八フェスティバルIN京都」で一節切の製作から演奏まで外国人尺八演奏家に指導。2015年CD「一節切の音魂」を竹保流尺八宗家事務局より発行。現在、東京、大阪を中心に一節切尺八の講演、講習、演奏を積極的に行っている。

製作

今回のワークショップでは、子どもに人気のある「一休さん」が吹いた笛を作って吹こう、というキャッチフレーズで広報を展開した。浜松市の広報誌である「広報はまつ」にて募集したところ、申込はすぐに定員に達した。

当日の製作手順と図面は、次の通りで、会場に掲示するとともに各人にも配布した。

子どもワークショップ

一休さんの笛「一節切尺八」の作り方

1.竹の見分け方

- ①歌口(うたぐち)と管尻(かんじり)・(上と下)。
- ②表と裏。

2.竹を切る

- ①竹の節から歌口(上)の方へ12.7cmのところに印をつける。
- ②印から管尻(下)へ31.6cmのところに印をつける。
- ③印をつけたところを、まっすぐに切り落とす。

★テープでぐるっと巻いて、テープの端に沿って切る。

3.指孔(ゆびあな)の位置を決める

- ①歌口(吹き口)の真ん中を決めて、印をつける。
- ②歌口の真ん中から管尻(下)に向かって真っすぐに線を引く。(タテ線)
- ③歌口から、第1孔～第4孔、裏孔(第5孔)の位置に印をつける。(ヨコ線)

4.指孔を開ける

- ①タテ線とヨコ線が交わったところを、キリでまっすぐに2～3ミリほど穴をあける。
- ★キリで指をささないように気をつける。
- ②穴をあけたところを、電動ドリルで穴を大きく開ける。

★電動ドリルは危険なので、先生と一緒につかう。

5.削りカスを取る

- ①ドリルで開けた指孔の管内外のカスをヤスリで取り除く。
- ②竹の節は抜いてあるが、平らかにするため棒ヤスリで更にけずる。

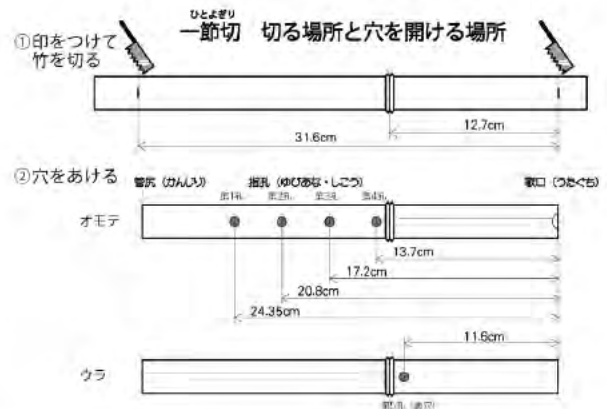
6.歌口を作る

- ①歌口の中心点から、小刀で斜め下に浅めに切る。(見本で確認する)
- ★①は危ないので先生がします。
- ②歌口をヤスリでけずって、吹きやすい角度に調整する。

7.管内を布できれいに拭いて、MY HITOYOGIRI を吹いてみよう。

図面

今回製作の一節切は一休宗純が使用していた種類のもので、調子は盤渉調である。



博物館側で用意するもの

- ①竹管 15
- ②鉛筆・消しゴム 各15
- ③ドラフティングテープ 5
- ④定規(30cm 竹製) 15
- ⑤鋸 5
- ⑥キリ 15
- ⑦万力 5
- ⑧平ヤスリ・棒ヤスリ 各10
- ⑨軍手 15
- ⑩小刀 2
- ⑪ミニボール盤(電気ドリル) 2

※指孔を開けるのは通常キリとハンドドリルで行うが、今回は開ける孔の数が多いため、製作時間の短縮が必要であり、また簡単に開けられるように、ミニボール盤を使用した。

ワークショップの進行

1. 楽器の歴史や種類のお話と演奏



2. 図面を見て定規で竹管に寸法の印をつけ、鋸で切る



3. 長さの確認と切り口のヤスリがけ



4. 先生が確認してくれてホッと安心



5. ドリルで指孔を開ける



6. 先生に歌口を切ってもらいヤスリでみがく。



切る前(左) 切った後(右)

7. 歌口の仕上げは先生にお願い



8. さて、吹いてみよう



9. ウーン…… ヤッター!



改善点

参加した子どもたちには大変好評で、一生懸命作る様子が印象的であった。また保護者にとっても初めて知る楽器で、子どもとともに日本文化を学ぶことができ、喜ばれた。

予想はしていたが、やはり製作にかなりの時間がかかり、完成後の演奏の時間が不足し残念であった。次回開催する場合は、製作時間の短縮方法を検討し、演奏にじっくり取り組めるように、プログラムを改めたい。

おわりに

今回、静岡県博物館協会地域セミナーの補助金をいただいで、このイベントを開催できたことに、改めて感謝を申し上げます。隠れた日本の音楽文化であり、一休さん、戦国武将、そして地元浜松の古刹にもゆかりのある楽器を紹介できたことは、子どもたちにとっても大変有益であったと思われる。楽器を鳴らすには少し苦労したが、参加者は「楽しかった!」と満足の様子であった。継続は力なり、なので、来年度も引き続き開催したいと考えている。

上原美術館のリニューアル

公益財団法人上原美術館 土森智典

はじめに

2017年11月3日、上原仏教美術館と上原近代美術館が一つになり、上原美術館(仏教館・近代館)がリニューアル・オープンした。

上原仏教美術館は1983年5月、大正製薬名誉会長を務めた上原正吉(1897—1983年)・小枝(1909—1996年)夫妻の寄附のもと、小枝氏の故郷である下田市宇土金に開館した。もともと130体ほどの近現代の仏像を収蔵、次第にコレクションの幅を広げ、平安時代の十一面観世音菩薩立像(重要美術品)や、鎌倉時代の阿弥陀如来立像のほか、奈良時代の紫紙金字華嚴経断簡、平安時代の中尊寺経などを収蔵する。また、開館時より伊豆の仏教文化の調査を継続的に行い、地元の仏像や仏画を展示する特別企画展を毎年開催してきた。

上原近代美術館は、上原正吉・小枝夫妻の息子で、現在も大正製薬株式会社名誉会長を務める上原昭二(1927年—)氏が蒐集した美術品の寄附を受けて、2000年に開館した。印象派やマティス、ピカソなどの西洋絵画から、安井曾太郎、須田国太郎、横山大観、小林古径などの日本近代絵画を約300点収蔵、コレクションより季節ごとに展覧会を開催してきた。

2013年、上原仏教美術館が開館30周年、上原近代美術館が開館13周年を迎える頃より、各施設のリニューアルが検討され始めた。そして、およそ4年の期間を経て2017年に全工事が完了し、上原美術館としてオープンした。今回、当館のリニューアル・オープンまでの流れと新しくなった建物の概要をご紹介します。



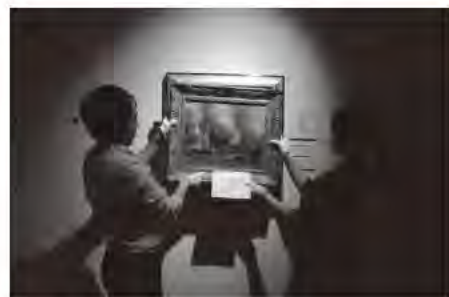
1. 上原美術館外観(左は近代館、右は近代館)

上原近代美術館の照明リニューアル

2013年頃、上原近代美術館では展示室照明リニューアルの検討を開始した。スポットライト(ローボルト)の生産が終了していることや、個別調光ができないこと、トランスからノイズが発生することなど、多くの問題を抱えていたためである。専門的な知識を持つ協力者が必要と考え、多くの専門家から話を聞き、静岡県博物館協会にて講演を行った灯工舎の藤原工氏にコンサルタントを依頼した。

最初に現状の光環境を分析し、調査報告にまとめた。そこで美術館の光を個人の邸宅のように温かく柔らかなイメージを目指すこととした。最新のLED照明器具を幾つか取り寄せ、実際に展示室内で比較検討した。LEDスポットライトは、商品によって光の特徴が大きく異なり、色温度や作品の素材によっても見え方が変わる。最終的に収蔵品が最も自然な印象に見えるシーシーエス株式会社の紫励起LEDスポットライト(3,200K)を採用した。このスポットライトは作品のほか、ベース照明として壁の下部を柔らかく照らしている。その結果、展示室内の明暗差が小さくなり、空間全体を障子越しの光が包み込むような、鑑賞者の目に負担の少ない光環境が生まれた。展示室の天井照明も、グレア(不快な眩しさ)が直接目に入らないよう対処した。エントランスやラウンジの間接照明には光のコントラストを柔らげるようバフファを設置した。

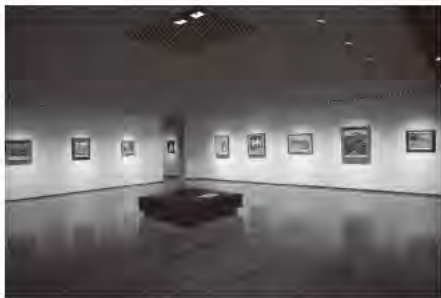
照明リニューアル工事は、上原仏教美術館の大規模リニューアルに先駆けて2015年に完了した。



2. 展示室での照明テストの様子。実際の作品を用いて、スポットライトの種類や、色温度などを比較した。



3. リニューアル前の展示室。天井照明とハロゲン
のスポットライトのみで照明していた。



4. リニューアル後の展示室。壁の下方にうっすらと
ベース照明を作ることでも暗のコントラストを小さくし、鑑賞者の視覚的なストレスを減らした。照度を下げながら、細部やキャプションまで見易い光環境となっている。

上原仏教美術館のリニューアル開始

上原近代美術館が照明リニューアルの検討を開始した2013年、上原仏教美術館は開館30周年を迎えていた。同年の特別企画展として『癒しの仏 薬師如来～伊豆の薬師如来像～』（2013年10月26日～12月8日）を開催、好評を博し多くの来館者にご覧いただいた。展覧会が成功を収めた一方、施設規模や美術品保存環境の問題、施設の老朽化が課題となり、この時期よりリニューアルの検討が始まった。美術館のあり方を根本から考える中で、重要文化財や国宝が展示できるレベルの美術品保存環境が必要と判断し、2014年に大規模リニューアルを行なう方針が決定した。リニューアルにあたっては文化庁に指導を仰ぎ、建築の検討には文化財について知識を持つ学芸員が必ず関わることとした。

経験豊かな建築会社であっても、文化財を扱う美術館の建築は特殊である。そこで学芸員が美術館の特殊性を説明することから設計が始まった。収蔵庫の前室の必要性、荷解室の役割、温湿度や空気質の厳密な管理など学芸員としては当然の前提が、建築関係者の常識とは異なっている。ときには認識のずれが生じることもあり、他分野の専門家同士によるコミュニケーションの難しさを痛感した。



5. 2014年に上原仏教美術館で開催された特別展
『地獄と仏』。この頃の特別展では、展示室に入りきれないほど、多くの方々にご来館いただいた。

建築コンサルタント

そこで多くの美術館設計デザインに実績があるStudio REGALOの尾崎文雄氏に建築コンサルタントを、灯工舎の藤原工氏に照明コンサルタントを依頼した。当時、設計は最終段階となっていたが、コンサルタントと学芸員がリニューアルの目的を共有することから始め、それがどのように設計に反映されているか分析した。建築会議ではコンサルタントが同席し、学芸員の意図を建築側に丁寧に伝えることで、問題点を一つずつ解決していった。また、建築側の意図を分かり易く説明してもらうことで、設計の進捗状況を正確に把握できるようになった。コンサルタントによる図面や見積書の確認は、無駄な建築経費の削減につながり、建築のトータルコストを圧縮できた。

設計がほぼ終了した段階で尾崎氏の企画により、学芸員と建築関係スタッフが京都・奈良の美術館や寺院を一同に見学する視察会を行った。様々な施設の展示環境を見ながら、進行中のプロジェクトを議論したこの視察会は、関係者全てが目標を共有する重要なターニングポイントとなった。

建築の打ち合わせは月2回開催した。ときには、鑑賞を妨げないようコンセントの位置を数センチずらすために数



6. 学芸員と建築関係スタッフによる視察のようす。実際に建築素材や照明などを見ながらスタッフ間で議論を深めた。

時間の議論を行なうこともあった。こうした細かい議論の積み重ねの結果、多くの難題を乗り越えて、2017年6月末に建物が竣工した。

エアタイト展示ケースの施工

建物の竣工後、すぐにエアタイト展示ケース(密閉性の高い展示ケース)の施工を開始した。はじめにコンサルタントの尾崎氏が学芸員の意見をまとめてコンセプトを作成、それをもとに2015年夏に三社の入札を行った。採用の基準として、エアタイトケースの基本的な性能、使い勝手はもとより、ケースの限られた空間内で柔らかく均一な光を実現できるかを重視した。この基準を満たしたコクヨ株式会社の展示ケース案を採用した。

ケース作成にあたっては、仏教館の仏像ギャラリー内に実寸大のモックアップ(模型)を作成して、照明のあり方について議論を重ねた。コンサルタントやコクヨ株式会社のほか、照明業者のシーシーエス株式会社、株式会社キテラス等の関係者が集まり、理想的な光を求めて実験と手直しを繰り返した。モックアップを用いて塗装色、壁紙の色、ワイヤーの種類などを決定した。モックアップ作成に費用は発生したが、結果として速やかな工事進行、目的に合った仕様の選択など、質の高い施設を作るために最も重要な工程となった。

2017年6月の建物竣工後すぐに工事を開始し、8月には予定通り展示ケースが完成した。ケース内の空気質については、開館後も定期的に検知管による計測を行い、空気の入替えなど対処を行っている(エアタイトケースは木材等から酸性物質が放散されるため、竣工後は定期的な換気が必要)。



7. 仏像ギャラリーに展示ケースのモックアップ(実寸模型)を作成して、照明の光がどのように広がるか検証を重ねた。

室内環境

増改築した新しい仏教館の空調設備は、これまで収集分析してきた様々なデータが活用されている。上原近代美術館では開館以来、温湿度データ、空調データ、空気質を収集し、室内環境設計に携わった鹿島建設株式会社技術研究所とともに継続的な環境調査を行ってきた(その成果は2014年日本建築学会環境工学委員会熱環境運営委員会第44回シンポジウムにて「屋内文化財の保存と公開に関する課題」として発表された[権藤尚、三原邦彰、犬塚将英])。仏教館の空調機器の選定や計測ポイントの決定などには、こうしたデータを活用している。

空調設計には慎重を期したが、運用が始まると制御に関して軽微な問題も発生した。実際の運用時には机上の設計では想像できない事象が起こり得るので、人間の眼や感覚、継続的なデータ収集が重要となることを再認識した。こうした問題も建築会社や空調管理のバナソニックESエンジニアリング株式会社とデータを精査しながら対応したことにより、一つひとつ解決していった。

定期点検や環境調査は費用的な負担がかかるが、長期的に見れば費用対効果は高い。近代館では2010年頃より電力使用量を調査し空調制御の設定値の微調整を行なうことで、3割程度の電力量を削減している。

美術館の運営

こうして建築を進める中で浮かび上がった課題は、美術館の運営のあり方である。1983年に開館した上原仏教美術館、次いで2000年に開館した上原近代美術館は、それぞれ財団が異なるため、隣接しながらも入館券は別々で販売し運営していた。利用者からは両館の関係が分かりづらいという声が多く聞かれた。

2013年には両館を運営する公益財団法人上原仏教美術振興財団、公益財団法人上原近代美術館が合併し、公益財団法人上原美術館となり、美術館を一つにする流れが醸成された。2016年春、リニューアル・オープンを機に両館が一つになり、上原美術館(仏教館・近代館)として運営する方針が決定し、それにとまない美術館のミッションの見直しを行った。美術館の基本的活動である展示、収集保存に加えて、これまで継続的に行ってきた調査研究、教育普及活動など公益性の高い事業の重要性を再確認し、それらをさらに推進していくこととした。一例としては、教育振興を目的として高校生以下を入館無料とした。

また、新しい美術館のロゴの作成など、実務的な業務も進めた。こうして、仏教美術と近代絵画のジャンルを超えた美が出あう上原美術館としてコンセプトを固めていった。



8. 2017年に作成した美術館の新しいロゴマニュアル。

上原美術館の概要

2017年11月3日文化の日に上原美術館がリニューアルオープンした。上原美術館は丘の上の広場を囲んで二つの建物が並び建っている。

上原美術館の受付は仏教館入口横にある。仏教館の自動ドアを入ると仏像ギャラリーの大きな空間が広がる。明治から昭和にかけて制作された仏像およそ130体が並ぶこの部屋は鑑賞空間としてだけでなく、仏像の姿を学ぶ教育的な役割も担っている。明るい仏像ギャラリーから奥へと進むと、その先に展示室がある。ここはエアタイト展示ケースが設置され、美術品保存環境として最も質が高い空間である。将来的には、ここで重要文化財や国宝を展示することを目指している。収蔵庫や図書室、搬入口は地下に設置されている。

仏教館の鑑賞後は隣接する近代館を観覧し、ラウンジ



9. 仏教館フロアマップ



10. 近代館フロアマップ

では窓外に広がる伊豆の山々を眺めながらくつろぐことができる。

増改築した仏教館: 仏像ギャラリー

ここからは新しくなった仏教館の施設を紹介したい。リニューアル前には大正殿と呼ばれた主要な建物と、その奥に展示ロビーや事務室のある増築棟があった。今回のリニューアルでは、大正殿をそのまま残して内部を改装し仏像ギャラリーと改称、増築棟を取り壊して新築した。仏像ギャラリーで今回リニューアルしたのは、壁紙と照明のみである。壁紙は金色から白の塗装に変更した。照明は、近代館と同じシーシーエス株式会社の3,200Kの紫励起LEDスポットライトを採用、仏像の柔らかな雰囲気を引き立たせるため、グループごとに柔らかな光で包むような空間を作った。展示室の高窓は当初塞ぐことも検討したが、仏像ギャラリーの大空間の魅力を引き出すため、そのまま残した。そうすることで、奥の暗く落ち着いた展示室との空間のコントラストを生み出し、来館者のより豊かな鑑賞体験を演出している。



11. リニューアル前の仏像ギャラリー(旧・大正殿)のようす。同空間の中に新しい仏像と平安・鎌倉時代の仏像と一緒に展示されていた。



12. リニューアルした仏像ギャラリー。壁を白に変更し、照明を更新。ここには明治以降の仏像のみを展示し、奥の落ち着いた展示室と対照的な明るい空間にした。



13. 照明は仏像のグループごとに柔らかな光で包み込み、さらに必要な仏像には追加で光を添えている。また、上部の高窓から自然光も取り入れている。

仏教館:龕(がん)

仏像ギャラリーを奥へ進むと、増築棟へ続く入口がある。ここは建築設計上、廊下が曲がり、正面が壁となってしまうため苦慮した部分である。その構造を逆手にとつて、壁の部分に壁龕あるいは床の間のような凹みを施した。ここには掛軸などを展示することができ、来館者が自然に奥へと導かれるような空間とし、動線が曲がることを新たな鑑賞体験に組み入れた。



14. 増改築棟へと続く入口に位置する龕の空間。

仏教館:回廊

龕の先を左へ曲がると、まっすぐに続く廊下があらわれる。床材には表情豊かな国産のアカシアを使用している。ここはできる限り余計なものを排し、奥へ続く空間のみが際立つように作り上げている。天井は一枚の板がまっすぐに続くような印象を生み出すため、間接照明の光が途切れることのないよう工夫した。回廊の奥には小さな展示物を飾ることができ、来館者を奥へ導く仕掛けにしている。仏像ギャラリーの大きく明るい空間から、落ち着いた展示室へ向かう上で、来館者の気持ちを高める役割を担っている。



15. 回廊の先を左へ曲がると、ホワイエ、展示室が続いている。手前左は多目的室の入口。

仏教館:多目的室

回廊の手前左には展示やレクチャーなどを行なう多目的室がある。天井には格子状に配線ダクト(照明のレール)を配し、あらゆる展示に対応できるようにした。壁の上部にはピクチャーレールを設置し、床の中央部にはコンセントを埋め込んでいる。壁紙はプロジェクターを投影できるものを選んだ。初回の展示では美術館を紹介する映像を放映する映像ルームとして活用した。



16. 多目的室。初回展示では美術館を紹介する映像ルームとした。

仏教館:ホワイエ

展示室の手前には国産の栗材に囲まれた小さな空間ホワイエがある。天井を見上げると、天窗のような光が広がっている。ここはLED照明を使用して建築的に作り込み、一見すると光天井なのか、間接照明なのか分からない不思議な光が広がっている。照明はタイマーによって色温度を変えられる仕様である。展示室の手前で精神的な天の光が感じられるような空間とした。



17. 天井から自然光のような光が降り注ぐホワイエ。右手に展示室入口がある。

仏教館:展示室

仏教館の最も奥に位置するのが展示室である。ここは単に作品を展示するのではなく、折りの対象としての仏像に敬意が感じられる空間を目指した。壁は天井付近で斜めに折り込むことで、隅が消え入るお堂のような空間に仕上げた。

照明は仏像に光を当てるのではなく、像そのものが自然な光を纏うような設計がなされている。明暗のコントラストを抑え、光が後ろにもまわり込むため、照度が低くても細部まで見やすい光環境となっている。また、上原美術館全体に通じる照明思想であるが、グレアを排し、影の線が極力出ないように調整している。例えば、展示室の奥はパーティタイプのLED照明を使用しているが、端のラインが出ないようにバッファで光を調整している。



18. 展示室正面。



19. 展示室の照度は低めに設定されているが、全体に光がまわり込んでいるため細部まではっきりと鑑賞することができる。



20. 展示ケース内の照明は壁の上部から床まで均一な光をあてることができる。現在は仏像や写経の展示に合わせて、上部をやや暗くした設定にしている。

最も入念に設計されたのが、展示ケース内の光環境である。最終的には光源の位置と拡散シートのバランスを組み合わせた革新的な設計によって、わずか120cmの奥行の中で最上部から床まで均一な光を生み出すことができる展示ケースが完成した。これにより、展示物を置くだけで全体に光がまわり、仏像であれば顔など僅かに暗い部分に光を添えるだけで、生き生きとした姿があらわれる。展示ケース内の照明は複数のLED照明を組み合わせているため、均一な光を作るばかりでなく、グラデーションの光も再現でき、複数のシーンを記録できるようになっている。

上原美術館のこれから

今回のリニューアルのきっかけは2013年、上原仏教美術館の展示ロビー改修の検討に始まった。そうした中で、伊豆地域をはじめとする仏教美術の継続的な調査と展示の重要性を再確認して、重要文化財・国宝が展示できるレベルの美術品保存環境が必要と判断し、大規模工事の着手となった。さらには、より公益性に資する活動を行なうため、上原仏教美術館と上原近代美術館が一つになり、上原美術館(仏教館・近代館)としてリニューアルオープンすることとなった。

今後、上原美術館では年3~4回の展覧会を開催、毎年地元の仏教美術を紹介する特別展を開催する(平成30年度は秋に『伊豆の平安仏展(仮)』を開催予定)。その他、仏教美術や近代絵画などのジャンルを超えた展覧会も開催予定であり、その最初の展覧会として『リニューアル記念Ⅱ 美を旅する—静岡県立美術館のコレクションとともに—』(2018年4月14日~5月20日)を開催する。

また、引き続き幅広い調査研究活動を行なうほか、学校や教育機関と連携した教育普及活動を継続的に実施し、上原美術館が伊豆半島南部の文化振興の拠点として貢献できるよう努めていきたいと考えている。

静岡県博物館協会 研究紀要投稿規程

1. 投稿を受け付ける原稿

(1) 内容規定

加盟館園職員が従事している職務(展示・調査研究・保存、教育普及・その他)に関する論文、報告、事例紹介、収蔵品紹介等
※専門分野に関するものに限りません。学芸職員以外の投稿も歓迎します。

(2) 執筆者規定

加盟館園職員一人もしくは複数人の執筆によるものとします。複数人による場合、全執筆者の1/3が加盟館園職員であることを条件とします。

2. 入稿規定

(1)

日本語による原稿を基本とします。

(2)

デジタルデータと印字原稿、必要なら図版(ホジ、印画紙写真、デジタルデータ、図面等)等を併せて提出して下さい。
デジタルデータはOSを問いませんが、必ずテキストデータを添付して下さい。図版のデジタルデータはJPEGに統一して下さい。
※万一の場合に備え、原稿提出の際には必ず手元に控えを残しておいて下さい。

(3) 分量

ページ数目安(1ページ当たり)	事例報告等(1~4ページ分程度)	事例報告等(1/2ページ分)
論文 縦書き 写真無しの場合 2,000字 写真有りの場合 1,600字	縦書き 写真無しの場合 2,000字 写真有りの場合 1,600字	縦書き 写真無しの場合 1,100字 写真有りの場合 900字
横書き 写真無しの場合 2,000字 写真有りの場合 1,600字	横書き 写真無しの場合 2,000字 写真有りの場合 1,600字	横書き 写真無しの場合 1,100字 写真有りの場合 900字

(4) 文字原稿(印字原稿は次の書式でご提出下さい)

字数(1シート) A4版 40字×30行
※誌面レイアウト・フォーマットに揃えた入稿も歓迎します。レイアウト見本をご希望の方は、事務局にお問い合わせ下さい。

(5) 図版原稿(1ページの版面はA4)

カラー(巻頭図版) 掲載希望があればご相談下さい。
モノクロ すべて挿図として扱います。

- a カラー図版原稿には、目次用のデータを明示して下さい。
- b 挿図原稿裏面に挿図番号とネームを記入して下さい。デジタルデータの場合は、データ名に明示して下さい。
- c 挿図原稿のコピーもしくは印刷された挿図原稿に、掲載希望範囲を、製版作業の支障にならないよう、明示して下さい。
- d レイアウトや掲載時の大きさの希望がある場合は、その旨注記して下さい。
- e 本文の印字原稿に、挿図番号で挿入箇所を示して下さい。

(6) 図版の著作権申請

写真等掲載に関する作品所蔵者・著作権者からの許諾等取得は、執筆者が行なって下さい。

(7) 執筆者の表示

原稿には氏名・自宅住所および所属機関所在地(それぞれ〒、Tel.、Fax.番号)・部署・役職を明記して下さい。氏名には読み仮名をふって下さい。
成果品である紀要には、氏名と所属のみ記載します。

3. 原稿の送付先

原稿は、下記宛にお送りいただくか、ご持参下さい。

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2 静岡県立美術館内
静岡県博物館協会事務局
Tel. 054-263-5857
Fax. 054-263-5742

4. 日程および申込・校正手順

(1) 日程

申込締切 平成30(2018)年11月末日
入稿締切 平成31(2019)年 1月末日
発行予定 平成31(2019)年 3月末日

(2) 申込方法

申込締切までに、下記項目を静岡県博物館協会事務局宛にご連絡下さい。

- ・執筆者 (複数執筆者の場合は、全員の氏名と所属を明記)
- ・題名 (仮題で可)
- ・分量見込 (レイアウト見本による全ページ数で表示。図版、表等の希望も含む。)
- ・縦書き、横書きの希望

※分量は、1本の論文当たり15ページ以内を基本とします。

(3) 申込の確認

静岡県博物館協会事務局は、申込締切後2週間以内に、執筆者申込時の分量見込みに基づいて紀要製作の見積もりを行いません。予算上製作が可能であれば、全申込者に申込通りの分量での執筆が可能である旨を連絡します。予算上不可能な場合は、申込者に対して分量についてのご相談を行ない、ご執筆いただく分量上限を決定します。

(4)

入稿は、上述2の「入稿規定」に従って、上述3の「原稿の送付先」に送付するか、ご持参下さい。4-(3)で示した事情により、実際に入稿した原稿が分量見込みより増えた場合、執筆者に分量を減らしていただくか、当該号での掲載を取りやめることがあります。

(5) 校正

入稿締切までに入稿された場合、執筆者は文字校正2回、図版校正2回を行なうことができます。入稿締切が守られなかった場合は、この限りではありません。

(6) レイアウト

レイアウトはフォーマットに基づき、執筆者の希望を尊重して行ないますが、最終的には静岡県博物館協会事務局が決定します。

5. その他

(1) 文責

原稿の内容についての文責は、全て執筆者にあるものとします。著作権や誤植、不適切な表記等の問題について静岡県博物館協会及び静岡県博物館協会事務局は、一切の責任を負いません。

(2) 執筆者への成果品割当

執筆者には、30部を贈呈します。複数執筆者の場合、全員分を合わせて90部を上限として贈呈することができます。

(3) 抜き刷りの作成

執筆者から希望のある場合、実費をご負担いただくことで、執筆箇所の抜き刷りを作成します。静岡県博物館協会事務局にご相談下さい。

